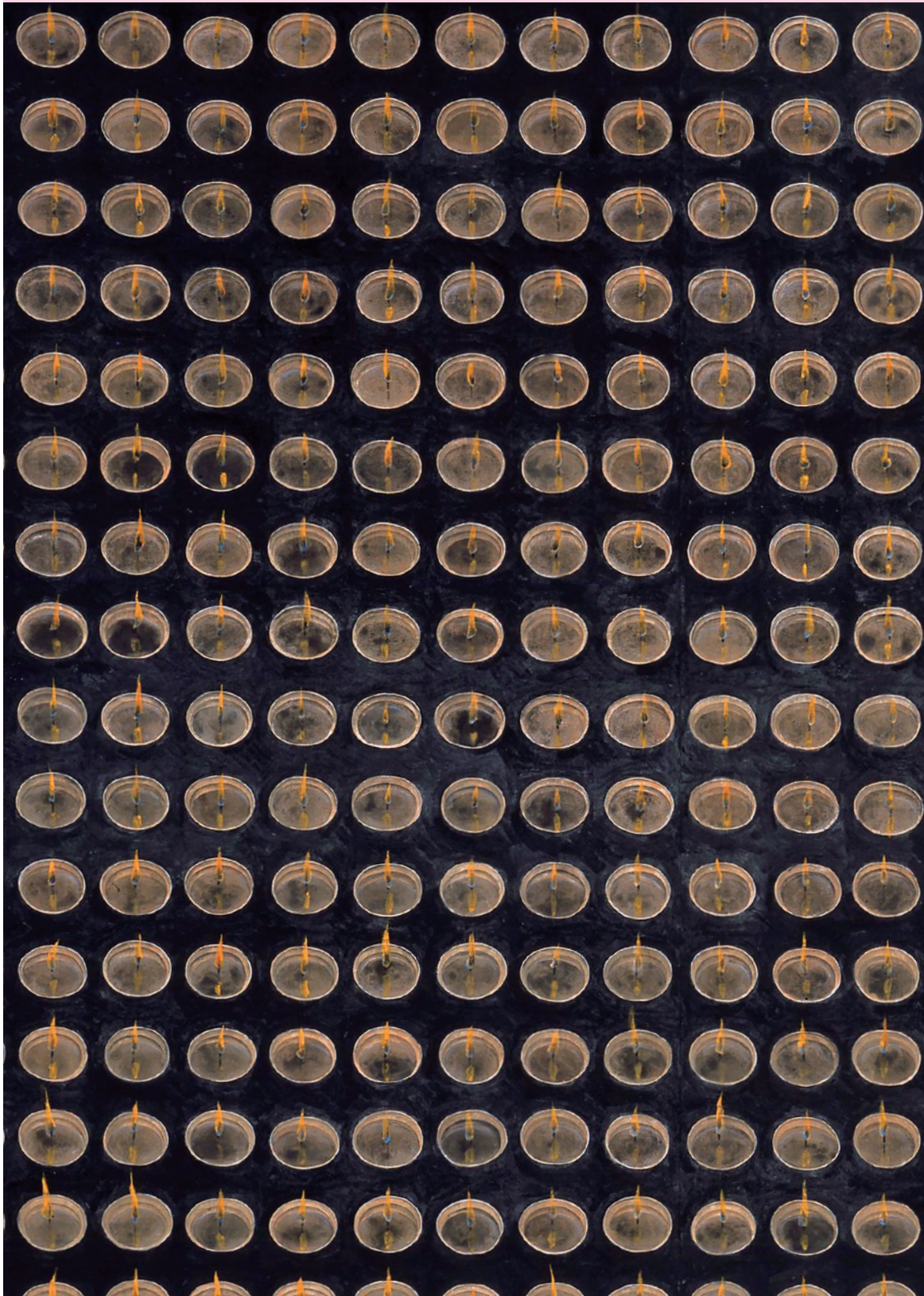


MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

2016年9月
No.141

無 書 燈



大谷大学同窓会

同窓会員の皆様へ

第28代 大谷大学長 木越 康



同窓会員のみなさまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より母校大谷大学へ多大なるご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

私、本年4月より学長職を拝命いたしました。草野顕之前学長の下で進めてまいりました教育や研究に関する諸改革（グランドデザイン）を推進し、大谷大学としての社会的役割を完全に果たしていかなければならないと、決意を新たにいたしております。

さて、近年の改革の中で、大谷大学はこれからさらに大きな変革を遂げようとしております。4年制学部では、これまで文学部1学部体制を長く堅持してまいりましたが、2018年4月より社会学部と教育学部の2学部を加えた3学部体制で大谷大学を運営すべく、現在設置に向けた準備を進めております。

大谷大学は言うまでもなく、仏教、特に親鸞聖人の精神を建学の理念に掲げる大学です。複数学部化によって理念が削弱するのではないかと、不安を抱かれる方々もおられるかと存じます。しかし、この複数学部化を目指した改革は、仏教精神に基づく大谷の教育を、より積極的かつ实际的に展開するための強化策であると教職員一同理解しております。

混乱の度合いを深める現代社会にあって、仏教には、人間教育の面でますます重要な責任があります。それは、机上の研究や教育に留まるものではなく、より積極的に社会を創造し、人間育成にあたるという形で展開されるべきであります。社会学部では、親鸞聖人の思想に則った同朋社会顕現の任を果たすべき人物を養成し、また教育学部では、子ども心に寄り添い、慈しみの心にあふれる人間教育を実現していく教育者・保育者を養成したいと考えております。また新しい文学部には、これからの大谷大学の教育活動を象徴し統合する、より大きな責務が課せられることとなります。

現在ご協力を賜っております新教室棟「慶聞館」の建設も約70パーセントが完成し、2016年9月より教室や事務室などの運用を開始します。最新の教育設備を整えた同館は、新しく生まれ変わる大谷大学の教育活動の核となる建物として、学生たちに十分に活用されることでしょう。

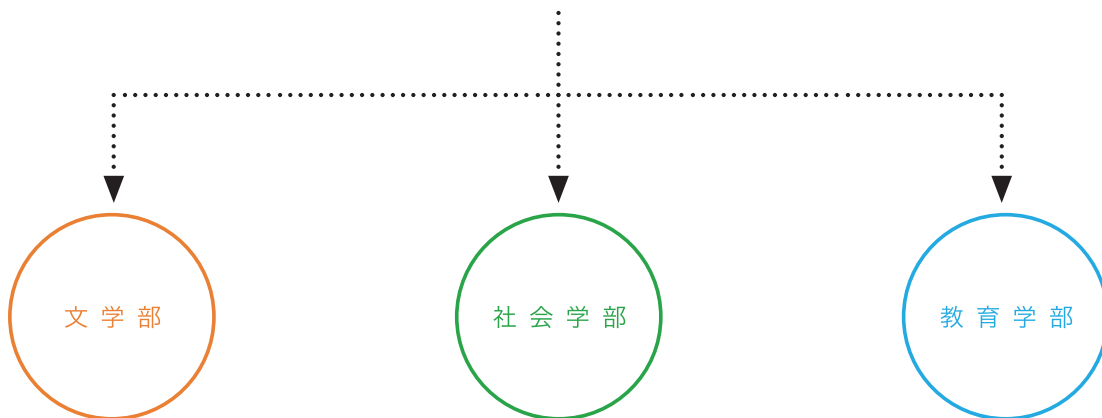
同窓の皆様方には、ぜひ新しい大谷大学にお帰り下さり、学生たちの生き生きとした学びをご覧頂きたいと思っております。その上で、母校のチャレンジをご理解いただき、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年4月、大谷大学は3学部体制に生まれ変わります。(設置構想中)



スペシャルムービー
<http://msg.otani.ac.jp/>

文学部1学部体制から、3学部体制へ



宗教や思想、歴史や文化など、人類の所産を学ぶことによってあるべき人間像・社会像を追求する人に。自分の中に、未来を切り開く可能性を発見します。

人や地域をつなげ、ともに生きる社会の創造をめざす人へ。社会へ飛び出し、日常のさまざまな事柄や地域をテーマに実践的な学びを行います。

子ども一人ひとりと向き合い、ともに成長しつづける先生へ。教員・保育者としての専門性はもちろん、心構えや実践力も養います。

(2018年4月新設予定 設置構想中)

※設置される学部・学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

(2018年4月新設予定 設置構想中)

※設置される学部・学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

大谷大学本部キャンパス総合整備計画の進捗について

現在進行中の大谷大学本部キャンパス総合整備計画の進捗状況についてご報告いたします。建築の概要については、大谷大学ホームページにおいて最新情報を掲載していますので、ご参照ください。



多様な学びを実現する、新しいキャンパスへ。

新教室棟 **〈慶聞館〉** 2016年9月より中央・南エリア利用開始！



名称となった「慶聞」は、親鸞の著書である『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）の総序「斯以慶所聞、嘆所獲矣。（ここをもって、聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなりと。）」を典拠としています。

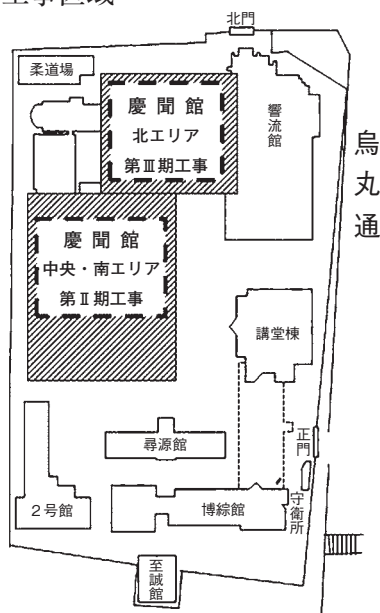
慶聞館は、2016年度前期末でⅡ期工事が完了し、什器・AV機器等の搬入・設置後、後期授業より中央・南エリアの運用を開始します。

1階中央の学生ロビーには学内カフェが併設され、その周囲には学生支援部（教務課・学生支援課・キャリアセンター）事務室をはじめ、学習支援室、語学学習支援室、文藝塾などの様々なサポートセンターを配置します。

2階～5階には、様々なタイプの教室と学生が自由に利用できるマルチスペース（マルチ・サブゼミ・コモン）を配置します。また、3階には情報系教室、5階には教員の個人研究室を配置します。

Ⅲ期工事は2016年秋に着工し、2018年3月末には竣工を迎え、2018年4月にグランドオープンを迎えます。

■慶聞館工事区域



詳しくはWebへ

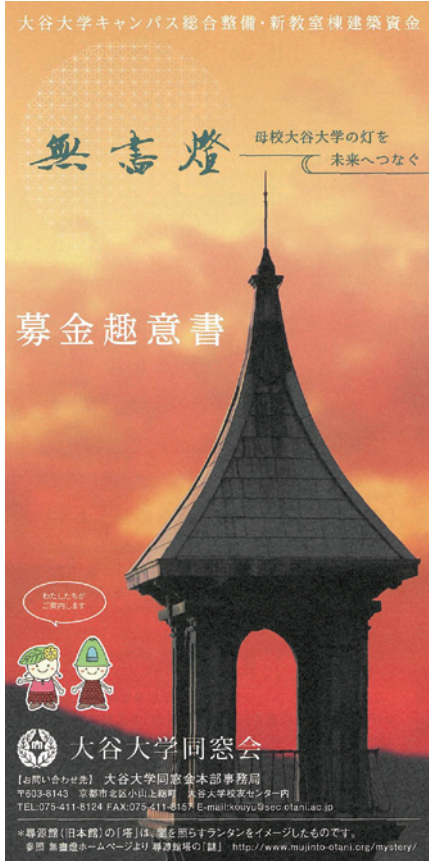
キャンパス総合整備計画

<http://www.otani.ac.jp/buildup/>



キャンパス総合整備・新教室棟建築資金募金のお願い

同封の趣意書をご参照ください。同窓生みんなで大谷大学を盛り上げていきましょう。
募金については、同窓会各支部よりご依頼がある場合がございます。よろしくお申し込み申し上げます。



- 募金名称** 大谷大学キャンパス総合整備・新教室棟建築資金募金
- 募金目的** 教育振興資金 教育研究施設・設備の充実のため
- 総事業費** 68億円
- 募金目標額** 募金総額6億円のうち、同窓会として2億円
- 募金の期間** 2015年8月1日~2019年3月31日
- ご依頼金額** 個人の場合
寄付金額 一口10,000円
同窓生の皆様には、5口以上のご寄付を賜れば幸いです。1口未満のご寄付も有り難くお受けいたします。
- 団体の場合**
何口からでも、有り難くお受けいたします。

寄付者名簿の作成

ご寄付いただいた方のおなまえ・法人名で寄付者名簿を作成します。払込取扱票にはおなまえと金額の掲載の可否についてご記入ください。

大谷大学地域連携室
コミュ・ラボの活動をWEBサイトでも発信中。

「大学を飛び出して、地域のおもしろいに出会おう。」を合い言葉に、さまざまなプロジェクトを実施。活動の様子をはじめ、積極的に取り組む学生たちの姿をぜひご覧ください。

アクセスはコチラから
<http://commulabo.otani.ac.jp/>



SNSでも
発信中!



大谷大学地域連携室
コミュ・ラボ



@ota2co3labo



@otanicomulabo

「こころ先生」ムービーを公開中!

大谷大学を卒業した「こころ先生」が教育現場で活躍中。小学校や幼稚園で子どもたちと真剣に向き合い、日々さまざまな困難を乗り越えようとする「こころ先生」。その様子や想いをムービーでご覧ください。

アクセスはコチラから
<http://sensei.otani.ac.jp/>



支部だより

大谷大学フェアを開催

2016年7月18日（月・祝）、ホテル金沢（石川県金沢市）において、大谷大学フェア（北陸）を開催いたしました。

大谷大学フェア（北陸）とは、北陸地区の大谷大学同窓生、在学生保護者、大谷大学に関心をお持ちの方々を対象とした、同窓会・教育後援会・大谷大学の合同企画です。



公開講演会

当日は同窓会北陸地区支部長会、同窓会金沢支部・能登支部の支部総会や進学相談会、また、教育後援会保護者懇談会などのイベントを開催し、さらに公開講演会（金沢支部・能登支部／夏季八十講共催）を行いました。公開講演会では、木越学長が「変わらないもの、変わるもの」と題する講演を行い、多くの一般市民の方々や、同窓会員、教育後援会員など、総勢120名を越えるの方々にご出席いただきました。講演会の後の懇親会でも、再会を懐かしむ同窓生の姿などが見られ、盛会となりました。



懇親会

鈴木大拙先生 没後50周年法要が営まれました。

本学元教授で世界的な仏教哲学者である鈴木大拙先生の没後50年の命日に当たる2016年7月12日（火）、石川県金沢市の野田山墓地において没後50年の法要が営まれました。法要では、元真宗大谷学園理事長で光専寺住職（金沢市）の木越樹氏が導師を務められ、参列者全員が焼香を行い鈴木大拙先生の遺徳を偲ばれました。

法要に引き続き、金沢市本多町の顕彰碑前では献花式が行われ、鈴木大拙先生が卒業された新堅町小学校の6年生24人が「金沢市歌」を歌いあげました。献花式の中で、本学名誉教授で鈴木大拙館の館長である木村宣彰先生から、「鈴木大拙先生と同じように、世界で活躍できる子どもたちが出てくることを期待しています」という挨拶がありました。

同日の午後からは、金沢市の金沢歌劇座で記念講演会が開催されました。講演会では、長年鈴木大拙先生の秘書を務められていた岡村美穂子鈴木大拙館名誉館長から、「すべてのものには仏性がある」という鈴木大拙先生の晩年の言葉を紹介いただきました。

鈴木大拙館では、7月27日（水）～11月13日（日）まで、開館5周年記念特別展「無-心 Mu-Shin」を開催しています。大谷大学博物館蔵 金子大栄・鈴木大拙・曾我量深合筆墨跡も出展されています。詳しくは鈴木大拙館ホームページをご覧ください。



鈴木大拙館

<http://www.kanazawa-museum.jp/daisetz>



静岡県支部の活動



静岡県支部長 熊谷 法昭

静岡県支部には現在450名を超える同窓生がいます。以前は真宗大谷派静岡別院などを会場に講演会を開催していましたが参加者は少なく固定化していました。2009年に尋源舎との共催による「仏教公開セミナー」を開催することになり、一般市民にも広く開かれた講演会にしたいということで、土曜日午後の開催とし、会場を交通アクセスの良い県立の施設（グランシップ）の広々とした会議室としました。ポスター・チラシを作成して主に大谷派寺院に募集の依頼をしました。新聞社にも広報活動を行ったところ幸い記事として取り上げられ、当日は予想を上回る100名を超える参加者がありました。

翌年以降も人が集まりやすい静岡駅周辺の施設（ホテル、駅ビルの会議室、市の文化施設）を会場として夏季八十講を開催しており、毎年50名前後の参加者があります。参加者の層を広げようと休日を開催日としたり（2回）、子育て世代向けに幼児教育の講師を同窓会本部に依頼したりしましたが、なかなか思い通りの結果は得られません。

広報活動としては県下の大谷派寺院や同窓生の他に在学生の父母あてにも案内状を郵送しています。また、駅ビル内にあるカルチャーセンターにて開催されている「静岡親鸞講座（大谷大学教授の一楽真先生による歎異抄講話）」の場でPRを行っています。今年は会場となる「静岡音楽館AOI」のホームページのイベントカレンダーに情報掲載していただきました。



2015年夏季八十講（静岡県支部）

飛騨支部の現状と願い



飛騨支部長 内記 浄

8年前に現在の役員体制となって、まずは年に一度の「総会」開催のみでなく、より広く同窓会に関心を持ってもらえるようにと、機関紙（というよりもチラシ）『青雲の』を発行することとした。第一号には、結婚されたばかりの若い同窓生の記念写真、二号以降は前年の支部総会の様子などおりの写真、またおよそ卒業年次の高い方順に題字「青雲の」の揮毫、谷大時代のエピソードも執筆、そして役員交代での後書き「燭火」等である。さらに、支部総会の案内を載せて発行するもので、今年で8号となる。

また、事務局として、谷大職員であった窪田君が一年前から新しく入り、若い世代への発信もしやすくなった。

現在支部の同窓生は100名あまり、また寺院出身者が80%近くである。「夏季八十講」へは一般の方を含めて50～60名ほどの参加者であったが、その後の総会や懇親会への参加者となると15～20名ほどに減り、それも寺院出身者ばかりである。当初、支部総会を同窓会単独で開催したが、せっかく大谷大学の先生を迎えての講演であり、より多くの方に聴講していただこうと、一度は「高山別院 嘉念坊顕彰会」と、またその後は「飛騨学場」との合同開催とした。その結果、聴講者は2割ほど増えたが、やはり寺院出身者と年配の方が多い。もっとも、総会翌朝の「学場 暁天講座」は、仕事前の多くの市民の聴講がある。

今後は、「ナイトスタンド ブッディスト」（この言葉を初めて聞いたのは、10年ほど前に支部総会に来高された木越現学長の講演の中であった）であるシニア層に向けての広報や、全世界的に混迷する現代社会に応答する人文諸学の知見をより広く飛騨地域の方々に発信し、結果として大学の知名度ももっと上げていきたいものである。よきにつけ悪しきにつけ、飛騨地域は、そして飛騨支部もコンパクトである。より特色を発揮していける支部活動をすすめていきたい。



大谷大学と私



白館戒雲先生に
インタビュー

「学生をよく育てる
ことが一番大切です」

本学で20年あまり教鞭をおとりいただいた白館戒雲先生に、尋源館でお話を伺いました。

▶大谷大学で教鞭をとられるようになった経緯はどのようなものだったのでしょうか。

1959年にチベットで動乱が起り、チベットの学者の多くはインドに逃げました。最初、私はネパールに逃げて、インドに行ったのは1963年です。その後、1972年にヴァレナシーのサンスクリット大学を修了しました。その頃、浜松の国際仏教協会がスポンサーとなって、ダライ・ラマに京都へチベットの学者2名を派遣してほしいという話がありました。私はダライ・ラマの宗教関係の部署の一番偉い人であるクンデリンという方から日本に行くと言われて1974年から大谷大学でお世話になることになりました。背景にはチベット仏教を守ろうという国際的な関心があったと思います。当時、32歳でした。

私が大谷大学に来た当初、稲葉正就先生から、大谷大学にはチベット語文献がたくさんあるから、それを整理してほしいと言われ、仏教学の片野先生と一緒に図書館で文献整理をしました。稲葉先生には、研究室や図書館だけでなく、食堂でも仏教学やチベットのことを教わりました。先生の懇切な教養に「ありがたさ」を感じましたし、感動したことを覚えています。その頃、京都の大学の先生や学生たちに夕方6時から9時ぐらいの時間でチベット仏教を教えはじめました。1985年に専任講師になってからは多くの人にチベット仏教を教えることができましたし、自分の役割も少しは果たせたのではないかと思います。

▶大谷大学ではどのような科目を担当されたのでしょうか。また、印象に残っている出来事についてお聞かせください。

チベット語文法やチベット語演習の授業を担当しました。当時、私はゼミを持っていなかったので、空き時間に采摺先生と『法華経』を、井上尚実先生と『大阿弥陀経』を説

んだりしました。その後、国際文化学科の教員となりましたが、感心したことは学生も非常にいいし、先生方もすごく優しく、事務職員の方は非常に優しく丁寧に対応して下さいました。大学の近くには本屋もたくさんあって、私は学会で日本全国に行きますが、大谷大学ほど便利な大学はないと思います。

▶先生のご専門はチベット仏教で、チベットの仏教者ツォンカパの研究をなさっています。

ツォンカパは十四世紀頃の人で、中観や唯識を学びたくさんの書物を残しました。弟子も多く、関係のお寺もたくさんあります。私の先生もその系統です。それでチベットでは伝統的に『入中論』や『現観莊嚴論頌』を学びます。『入中論』を学ぶと大乘の空の考え方がわかるし、『現観莊嚴論頌』を学ぶと『般若経』のことが全部わかる。大乘仏教のことがわかるのです。その上で『俱舍論』を勉強すると小乗や部派仏教の思想がわかる。そのようにして仏教を全体的に把握するのです。

▶先生が研究の上で心がけてこられたことはどのようなことですか。

二つあります。チベットの論理学や中観の本を日本語に訳しました。それは新しいことではなく、チベット仏教で大事なものを日本に残しておこうと、これが一つです。それからもう一つは、日本へはチベットの聖典がたくさん伝えられていますが、チベットへは日本の聖典を何も伝えていない。ですから日本に伝わる仏教書や『法華経』の研究書などを訳して十一冊ほど中国で出版しました。名古屋大学の立川先生と一緒に『日本仏教史』を1976年にチベット語で書きました。そこには親鸞のことも『歎異抄』もある。チベットだけでなくモンゴルも含め、日本の聖典『歎異抄』を翻訳したのは初めてです。

▶『歎異抄』を選ばれたのはどのような理由からなのでしょうか。

『日本仏教史』を執筆する中で、親鸞にもものすごく興味がありました。『教行信証』を訳せばいいのですが、大部ですからそれは難しい。『歎異抄』は、親鸞が弟子に話した言葉ですから内容的に難しくない。『歎異抄』は真宗や仏教の枠を超えて日本の古典の代表だと思えます。西洋の書物などはたいしたことない。『歎異抄』ほど日本を代表する古典はないですね。日本の知識人はみんな読んでいます。そういう意味で選びました。そうしたらチベット人が『歎異抄』を非常にいいなと思って学んでいます。

阿弥陀仏の誓願によって我々が来世に往生できる、そういうふうにはチベットではみな極楽誓願を唱える。ラサで一番大きなモンラムという行事がありますが、そのときに極楽誓願を唱えるのです。モンラムという言葉は誓願という意味です。チベットでは阿弥陀仏が一番大事。そういう意味でチベットと真宗はすごく近いです。

▶先生は中国にも教えに行かれています。そのことについて教えてください。

中国では、完全ではありませんが1985年から大学で仏教を勉強してもいいことになりました。しかし、その頃にはチベットの偉い先生方はインドでもチベット本土でもみな亡くなっていました。チベット仏教を教えることができるのは、結局私ぐらいなのです。チベット人が昔の伝統を教えてほしいと希望しても、中国政府からなかなか許可が下

りませんでした。私が政治に全く関係がなく、ただ仏教の研究と教育をしていることが認められ、仏教を教えることが許可されました。私が日本の仏教書をたくさん訳して出版していることをチベット本土の人はご存知です。今、俱舎論・中観・般若と因明学の四つを教えています。

私は数え年で74歳になります。いつ亡くなるかわかりません。今まで勉強したことや伝統を時間の限り伝えていきたいと思っています。私は偉い先生方からたくさん学びました。その後も日本でずっと勉強していますが、歴代の先生たちから受け止めたことを伝えてほしいというのがチベット人たちの依頼です。私も日本とチベットとの橋渡しになれたらと思っています。

▶先生が教育で大切にしてくられたことはどのようなことでしょうか。

人を育てることです。日本の近代仏教学は西洋の影響で理論的になり、学問だけで信仰がなくなってしまった。『俱舎論』や『歎異抄』の研究をしてわかるのですが、仏教はやはり先生から弟子に伝授するという形で人を育てることが重要です。私はそういう形で教えられてきましたし、先生にありがたさを感じ、尊敬します。私も、ダライ・ラマに教えた先生に学びましたが、ダライ・ラマも法を聞く時には先生に礼拝します。教えを伝えるときも先生に教えられたことをこのように聞いたと伝えます。ですから先生との縁を切ることはできません。自分が先生よりも偉くなってしまうたら、頭が下がらなくなります。

日本の場合、昔は弟子が威張るということはなかった。

しかし、西洋から学問が入ってきて、研究は盛んですが仏教は段々衰退しました。人が育ってこないからです。仏教は研究だけではいけない。お釈迦様の教えを伝えてきた伝統や歴代の先生を大事する。そうして仏教を受け止め、人を育てるならば教えは残るのではないのでしょうか。大学の評価や論文も大切なことですが、学生をよく育てることが一番大切です。日本人が西洋の真似をしても日本に仏教は残らない。学問だけを愛して人を忘れたら駄目です。

▶今後の大谷大学に願うこと、大谷大学へのメッセージをお願いします。

大谷大学は仏教学が一番中心ですね。チベットという国がなくなって、仏教も大蔵経もなくなった。それで大谷大学が『大蔵経』の影印本を出版した。おかげで世界中の仏教者が学ぶことができた。それは大谷大学に『大蔵経』があればこそだったのです。大谷大学のような仏教の業績を残した大学は世界中のどこにもない。

いまでは当たり前になっていますが、インド仏教学にチベットの文献を最初に採用したのは山口益先生です。大谷大学は世界の仏教学に非常に貢献しています。それは仏教を伝え、人を育ててきた伝統によります。論文を書くだけではなく、これから人も育て、中観でも唯識でも『俱舎論』でもいい。その意味をわかる先生がいて伝えていく。大谷大学にはそれだけの文献と伝統がありますし、そこに大谷大学の存在の意味があると思います。これから人も育てることを大切にする大学であって欲しいと、私は願っています。

〔略 歴〕

1942年 生まれ
1972年 ヴァラーナシー サンスクリット
大学大学院修士課程修了
1974年 大谷大学西蔵大蔵経勘同目録
編纂所嘱託
1980年 大谷大学非常勤講師
1985年 大谷大学専任講師
1992年 大谷大学助教授
1998年 大谷大学教授
2008年 大谷大学退職
現在 大谷大学名誉教授

〔著 書〕

『インド仏教思想史(上・下)』(単著)
『阿毘達磨文献における思想の展開』(単著)
『インド密教思想史』(単著)
『インド倫理学・認識論と論理学・認識論の歴史』(単著)
『薩迦格言』(単著)
『TIBETAN HISTORY "TIBET AND TIBETANS Bod kyi lo rgyus phyogs bod dang bod mi』(単著)
『ツォンカパ菩提道大論の研究』(共著)
智恵の言葉 - 『サキヤ・レクシェー』の教え - (共著)

悟りへの階梯 チベット仏教の原典
『菩提道次第論』(共著)

〔論 文〕

「タルマリンチェン著『量評釈の釈論・解脱道作明 Thar lam gsal byed』第2章「量の成立」試訳(1)(2)
「ロンドルラマ著『量評釈など因明所出の名目』」
「縁起に関する考察 - チベット撰述の資料から -」
他著書・論文 多数

白館戒雲先生へのコメント

白館先生から学んだこと 大谷大学准教授 三宅伸一郎 (チベット学)

教育に力を注ぐこと、これが先生の信念であろう。この信念を支えるのは、教えを後世に伝えることこそが、その教えを授けてくれた師に対する報恩となるの思いであろう。

10年以上前のこと、毎週月曜日の夕方、チベット古典文学の傑作『ミラレーバ伝』(15世紀の作品)の講演会を開催なさっていた。先生の故郷を舞台とし、その地方の方言も使われた難解なテキストを直接教えていただく機会を得たにもかかわらず、未だその成果を何一つ出していない我が身に恥ずかしい。

講演の場において先生は、ネイティブらしく、

発音はもちろん音読の仕方についても厳しく指導された。そのことが、チベット語に対する関心をより深め、「生きた言語としてチベット語と向き合おう」という今の私の教育研究のスタンスを築いてくれたと思う。

先生の膨大なチベット語による著作は全て、自らパソコンを使って入力なさったものである。70歳を越えてもなお精力的に学問と教育に力を注いでいらっしゃるお姿を見ると、ただただ頭が下がるばかりであるが、同時に、自分もそうありたいと願っている。



みやけ しんいちろう
三宅 伸一郎

1992年3月 大谷大学文学部
史学科卒業
1996年3月 大谷大学大学院
修士課程仏教文化
専攻修了
1999年3月 大谷大学大学院博
士後期課程仏教文化
専攻満期退学
2003年4月 大谷大学講師
2012年4月 大谷大学准教授

母校だより

赤レンガ賞授与式

2013年度に創設されました「赤レンガ賞」の授与式が、2016年3月18日（金）に執り行われました。この表彰は、学生時代に様々なことにチャレンジし、結果を残してきた学生を表彰する機会を設けたいという教育後援会の思いからはじまり、今回で、3回目の表彰となりました。

2015年度も、学外での活躍が認められた2名が表彰されました。

受賞されたのは、太田啓介さん（歴史学科第3学年：受賞時）、池口風沙さん（国際文化学科第2学年：受賞時）です。

太田さんは、将棋の「第37回全国アマ将棋レーティング選手権」に出場し、優勝されました。

池口さんは、「第12回京都府年齢別ボウリング選手権大会」で優勝され、「第48回京都府ボウリング選手権大会」の3人チーム戦で3位となりました。また池口さんは、2016年2月22日（月）から24日（水）まで開催された「第47回全日本大学個人ボウリング選手権大会」に京都府の代表として出場されました。

授与式では、三村智子教育後援会会長より、励ましの言葉とともに表彰状と奨励金が授与されました。

その後の懇談会では、草野学長や福島学生部長、教育後援会役員の方々からも祝福の言葉が贈られました。



「赤レンガ賞」受賞者と教育後援会役員・大学執行部

名誉教授の称号贈られる

大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が一色順心先生（仏教学）、デッケ＝コルニル アルブレヒト先生（ドイツ文学・哲学）に贈られました。

授与式は4月1日（金）に学長室において行われました。



一色順心先生

デッケ＝コルニル アルブレヒト先生

課程博士の学位を授与

2015年9月30日（水）の2015年度前期学位記授与式において、博士後期課程修了者に「博士（文学）」の学位が授与されました。学位取得者は、安西廉氏（真宗学）1名です。



安西廉氏

また、2016年3月18日（金）の学位記授与式においては、博士後期課程修了者4名に「博士（文学）」の学位が授与されました。学位取得者は、亀崎真量（真宗学）、WU DENG（仏教学）、門井慶介（仏教文化）、濱野亮介（仏教文化）の各氏です。



（左より）WU DENG氏、亀崎真量氏



（左より）濱野亮介氏、門井慶介氏

人事

（2015年8月1日～
2016年7月31日）

執行部の交代

[学長]

木越 康

（前学長 草野 顕之）

[学監・副学長]

宮崎 健司

（前学監・副学長 水島 見一）

[教育・学生支援担当副学長 兼文学部長]

渡辺 啓真

（前教育・学生支援担当副学長 兼文学部長 木越 康）

[研究・国際交流担当副学長]

松川 節（再任）

[学生部長]

箕浦 暁雄

（前学生部長 福島 栄寿）

[入学センター長]

大秦 一浩

（前入学センター長 村山 保史）

[大学院文学研究科長]

乾 源俊

（前大学院文学研究科長 村瀬 順子）

[短期大学部長]

三木 彰円

（前短期大学部長 藤本 芳則）

2016年4月1日付（各通）

館長等の交代

[図書館長]

山本 貴子
(前図書館長 番場 寛)

[博物館長]

齋藤 望 (再任)

[真宗総合研究所長]

松川 節 (再任)

[人権センター長]

福島 栄寿
(前人権センター長 藤原 正寿)

2016年4月1日付 (各通)

附属幼稚園長の交代

[幼稚園長]

徳岡 博巳 (再任)
2016年4月1日付

退職

*** 定年退職**

[教育職員]

朝比奈覚順 (教授・文学部)
一色 順心 (教授・短期大学部)
デッケ=コルニル アルブレヒト
(教授・文学部)

水島 見一 (教授・文学部)
山野 俊郎 (教授・短期大学部)

[事務職員]

深堀 俊子 (教育研究支援部)
2016年3月31日付 (各通)

*** 契約期間満了による退職**

[教育職員]

赤澤 清孝 (任期制講師・文学部)
青柳 英司 (任期制助教・文学部)
一澤 美帆 (任期制助教・文学部)
上田早記子 (任期制助教・文学部)
孫 知慧 (任期制助教・文学部)
鳴 一志 (任期制助教・文学部)
堀田 和義 (任期制助教・文学部)

[事務系嘱託]

池畑 聡美 (学生支援部)
石井 実穂 (教育研究支援部)
上西 量子 (学生支援部)
大下 志保 (総務部)
柏 淳子 (学生支援部)
唐崎加奈世 (企画・入試部)
児玉 佳 (企画・入試部)
小林 千紗 (教育研究支援部)
高橋 良子 (学生支援部)
田村有美子 (教育研究支援部)
中井 晴恵 (教育研究支援部)

西山 沙織 (学生支援部)

福吉 朋恵 (総務部)

梁 順蓮 (総務部)

[寮監]

井野 了慧 (貫練学寮)

田端 彩子 (自灯学寮)

[学習支援アドバイザー]

古荘 匡義
2016年3月31日付 (各通)

*** 依願退職**

[教育職員]

中森 一郎 (教授・文学部)
2015年9月30日付

種子田 香 (任期制助教・文学部)

藤原 美沙 (任期制助教・文学部)
2016年3月31日付 (各通)

[事務系嘱託]

山村 依利 (企画・入試部)
2015年9月30日付

小熊 健一 (教育研究支援部)
2016年6月30日付

新規採用

[教育職員]

赤澤 清孝 (准教授・文学部)
高瀬 淳也 (准教授・文学部)

安藤 香苗 (講師・文学部)

大原 ゆい (講師・文学部)

朝比奈覚順 (特別契約教授・文学部)

水島 見一 (特別契約教授・文学部)

藤原 美沙 (任期制講師・文学部)

翁 和美 (任期制助教・文学部)

志賀 信夫 (任期制助教・文学部)

濱野 亮介 (任期制助教・文学部)

三鬼 丈知 (任期制助教・文学部)

宮崎 展昌 (任期制助教・文学部)

2016年4月1日付 (各通)

[事務職員]

尼崎 皆登 (総務部)

高田 理可 (総務部)

田邊 望 (学生支援部)

村上 良顕 (企画・入試部)

横田 茉紀 (企画・入試部)

2016年4月1日付 (各通)

[事務系嘱託]

井尻 美帆 (企画・入試部)

北村比佐絵 (企画・入試部)

2015年10月1日付 (各通)

上田 祥子 (総務部)

太田美紀子 (企画・入試部)

岡田 明子 (学生支援部)

北村 和香 (総務部)

竹田裕衣子 (学生支援部)

竹村なつえ (企画・入試部)

田中 基代 (総務部)

田端 彩子 (教育研究支援部)

常本 奈那 (学生支援部)

橋本 佳奈 (学生支援部)

林 容子 (教育研究支援部)

水谷 英紀 (教育研究支援部)

森川 茜音 (企画・入試部)

2016年4月1日付 (各通)

[真宗総合研究所東京分室長]

池上 哲司
2016年4月1日付

[寮監]

三池 大地 (貫練学寮)

北本多笑笑 (自灯学寮)
2016年4月1日付 (各通)

[学習支援アドバイザー]

小川 直人
2016年4月1日付

[PD研究員(真宗総合研究所東京分室)]

田崎 郁子
藤原 智
松澤 裕樹
2016年4月1日付 (各通)

[PD学芸員]

門井 慶介
2016年5月1日付

昇格

[教授]

赤瀬 知子 (文学部)
阿部 利洋 (文学部)

井上 尚実 (短期大学部)

浦山あゆみ (文学部)

鈴木 寿志 (文学部)

谷口奈青理 (文学部)

三木 彰円 (短期大学部)

[准教授]

井黒 忍 (文学部)

酒井 恵光 (文学部)

[講師]

上野 牧生 (短期大学部)
2016年4月1日付 (各通)

一色順心名誉教授を偲んで



本年6月6日、一色順心先生がご逝去されました。昨年度末に、定年退職されたばかりだったから、いかにも急な感が否めない。

私にとっては、学部学生の頃からの先輩なので、「一色さん」以外の呼び方が浮かばない。一色さんは、1950年

に岐阜県に生まれ、1973年大谷大学仏教学科卒業、1980年助手、1999年教授、と本学一筋に歩んでこられた。一方で、岐阜の大谷派のご大坊の住職も勤めておられたから、色々のご苦労があったと想像する。

私が最初に会った頃の一色さんは、細身で繊細な、いかにも秀才タイプの大学院生であった。学部のゼミで『大乘起信論』を学んでおり、明らかに同級生とは異なる雰囲気ですそこに臨んでおられたのである。

そういうわけで、一色さんの最初の論文は「起信論に於ける熏習について」である。その後、研究の中心は『起信論』から、『起信論』の注釈を著した華嚴宗の法蔵へと展開し、最後は法蔵

と同時代の復礼の研究に進まれた。著書『唐復礼撰十門弁惑論注解』(2006年、平楽寺書店)は、その精華である。並行して、『華嚴経』特に入法界品の善知識について考察を深められ、いくつも論文を書かれた。しかし、昨年5月の大谷学会春季公開講演会「華嚴経入法界品における善知識の過去世物語」が白鳥の歌となってしまった。

蓋し、一色さんは研究が好きだった。大量の書物を揃えて、本当はもっと自由に『華嚴経』の教えを深めたかったに違いない。それをする間もなく亡くなってしまった。後輩として悔しい限りである。

大谷大学教授 織田 顕祐

岩見至名誉教授を偲んで



岩見至先生が2016年5月19日に逝去されました。享年89歳。先生は、京都大学大学院文学研究科(哲学専攻)を修了され、1955年に谷大フランス語専任講師として着任、1992年定年退職されるまで、実に40年近く本学のフランス語教育に尽力されました。

私が入学時の谷大第2語学の必須は、教養2年間で10コマ、それでも昔より少なくなっていると言われ、今はもっと縮小されていると思います。当時は哲学や仏教学のphilologie専任の教員が教養の語学を担当していました。谷大は語学重視の伝統と言われながら、フランス語の専任は岩見先生だけという時代も長く、そうした中からフランス学士院へ入った今枝由郎さん等も巣立って行きました。逆に答案に単語を二つ三つしか書けぬ、語学苦手の学生もかなりいました。先生はそんな学生の為に教室で、ご自身でchansonのLa Merを唄われ、Yves Montandを語られました。フランス文化全般で学生たちを刺激され、悠揚迫らぬ授業で魅了

された。

先生は、短大部長や図書館長の要職を歴任し、論文・研究も多数発表されましたが、その一部を紹介します。

○東本願寺翻訳局目録に見える「耶蘇伝」 ○ベルグソンと文学一言語への不信 ○クレオパトラの鼻—哲学と文学の間 ○M.ビュートルの詩「炎の中」について ○ポプラと蛇 Flaubertに於ける動植物学

また《音楽友の社》から「不滅の大作曲家」シリーズの一冊、「ハイドン」M.ヴィニヤル著を翻訳刊行されています。

先生、長年のご指導ありがとうございました。

元大谷大学教授 加来 一九

大河内了義先生を偲んで



2016年5月6日、大河内了義先生が85歳でご逝去された。

先生は1990年4月に教授として着任され、1996年から2001年まで特任教授を務められた。厳しく授業に臨まれた先生は、学生たちには「怖い先生」として知られていた。だがそれは早合点

だろう。大河内先生と少しでも親しく接した者なら、本学の卒業生でもある先生が、どれほど後輩に期待を寄せ、愛情をもたれていたかを感じたはずだ。

先生のご専門はドイツ文学、とくにニーチェだった。そのお仕事は日本国内のみならず、ドイツでも広く知られている。それはニーチェへのアプローチが独創的だからだろう。『ニーチェと仏教』というご著書が示しているように、ニーチェのテキストを精確に読みながらも、あくまで日本人として解釈するのが先生の姿勢だった。先生は浄土真宗の寺院のお生まれだったが、そこから得られた仏教の素養がニーチェに新しい光をあてたのである。

ニーチェから親鸞までを論じた先生

は、「ドイツ文学者」という枠を超える方だった。そこで想い出すエピソードがある。先生が最後にドイツの地を踏まれ、ある友人を訪問された時のことだ。その方は先生にこう尋ねた。「おまえはドイツ文学者か、哲学者か？」しばらくして大河内先生はこう答えられた。「強いて言えば、考える人(Denker)かな」。また、ある方には「僕の関心は結局のところ(人間)なんだ」とおっしゃったそうだ。まさに「人間」をめぐって「考えること」が先生のご生涯だった。

先生、ありがとうございました。どうか少しお休みください。

大谷大学准教授 廣川 智貴

白土わか先生を偲んで



白土わか先生が亡くなった。先生は1919（大正8）年福島県の磐城（現いわき市）に生まれ、東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）を卒業後、都立高校で数年国語の教師をされた後、大谷大学に入学して山口益先生の許で仏教の研究を始められた。私が入学し

たのは1972年であったが、私にとって先生は所謂1回生の担任の先生であった。この時から数十年に亘って、研究の楽しさや厳しさに加えて、磐城と東京での暮らし、高校を辞めて京都に来たこと、フランスでの留学生活など、私は先生が経験された波瀾万丈の物語を種々伺ってきた。先生に出会い、私も入学した哲学科から仏教学科に移って仏教を勉強することになった。

東日本大震災より少し前の年の元旦であった。突然先生から電話がかかってきた。肺炎で入院しているから病院に来て欲しいと。女房と駆けつけると、いつも通りの凜とした佇まいで先生曰く。「あと5年ほどしか生きていそうにないから、私が死んだらあなたと加

治君（京都光華女子大学教授）とで私の骨を拾って磐城に届けてちょうだい。」先生は生涯独身であったし、養女にした姪も先に亡くしていた。結局先生と直接話したのはこれが最後となってしまった。震災の後、先生は故郷の施設に移り、私が先生の言いつけを果たすこともなかった。先生は折に触れ自分が病弱であることを話していた。「そう言う人に限って意外に長生きするものではないですか」と私はいつも憎まれ口をたたいてきたが、先生は天寿を全うされたのだと思う。2015年11月26日逝去、96歳。

佛敎大学教授 松田 和信
(1982年 大学院博士後期課程仏敎学専攻 満期退学)

クラブ紹介

バドミントン部

こんにちは、大谷大学バドミントン部です。私たちバドミントン部は現在1回生13名、2回生8名、3回生5名、4回生3名の計29名で活動しています。普段は大谷大学内の体育館にて、火・木・土曜日の週3回、全体で練習を行っています。男女混合で練習を行っており、常に切磋琢磨しながら、京都リーグ・関西リーグでのリーグ昇格にむけ、日々練習に打ち込んでいます。

私たちは、京都学生バドミントン連盟と関西学生連盟の2つに所属しています。どちらの方にも、団体戦・個人戦があります。京都リーグの方では、主に京都内やその近辺の大学でリーグが構成されています。関西リーグは、関西圏にある大学で構成されています。京都リーグでは男女1～3部リーグまで、関西リーグでは参加校が多いため、男女とも1～6部まであります。この2つの中で私たちバドミントン部は、上位入賞を目指しています。

近年、バドミントン部は男女ともに関西リーグで上位リーグに昇格、また個人戦で入賞ないし優勝するなど、めざましい躍進を遂げています。特に今年度は春に、男子が京都リーグにおいて念願の2部リーグに昇格することができました。これも、OB・OGの方々の支援があったからだと思います。今後ともさらに上のリーグ、レベルを目指し日々精進してまいりますので、変わらぬご声援をよろしくお願ひします。

大谷大学バドミントン部 西窪 了悟



児童教化研究会

卒業生の皆様、こんにちは。「児童教化研究会」と申します。児教研はきっと、皆様が在学生の時からあった部活なのですが、名前を聞いただけでは、どんな活動をしているのかが分かってもらえず説明するのが大変です。

私たち児教研は、お寺の土曜学校に伺わせて頂き、そこで子ども達と全力で遊ぶ事を主な活動としています。子ども達とする遊びは「子ども達がしたいこと！」なので、鬼ごっこやかくれんぼ、時には缶蹴りなどなど、とにかく子どもが「やりたい！」と言ったことを大切に考え、なるべく応えられるようにしています。

昨今は少子化により異学年交流の機会が減ってきています。そんな中で、近所の歳上・歳下の子ども達同士が意欲的に関わろうと思える場を提供することの出来る土曜学校は素晴らしいものであり、そこに伺わせて頂けるのは、本当に恵まれたご縁のお陰であると感じております。

部員の減少により、全てのご依頼に応えることは難しいのですが、これからも可能な限り、様々なお寺さんや子ども達と関わりを持ち、仏様の心を伝えながら成長していきたいと思っています。

子どもと共に全力で遊び、全力で学び、全力で触れ合う。そして少しでも「楽しかった！」や「来て良かった！」の声を聞けるように、これからも取り組んでいきたいと思っています。

大谷大学児童教化研究会 小川 康平



教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。なお、本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明(所得控除制度)、並びに税額控除に係る証明(税額控除制度)を受けていますので、寄付者の選択により、どちらか一方の税法上の減免税措置を受けることができます。

今後も引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。2015年8月1日から2016年7月31日までの間に、ご寄付をいただきました方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆総数 51件
◆寄付金総額 3,735,000円

(内訳)

2015年度分(敬称略)(2015年8月1日～2016年3月31日)

浅田 純(長崎県) 井上 正(新潟県) 加藤 祐彰(福井県) 門脇 洋司(島根県) 木村 友彦(滋賀県) 米田 幸代(大阪府)
佐長 光祥(香川県) 塩田 光代(京都府) 新川美由紀(香川県) 関 義信(京都府) 龍山 了榮(千葉県) 譚 雨生(滋賀県)
月輪 泰(福井県) 東山 正賢(青森県) 末井 等(石川県) 村田 和久(京都府)
(有)石間企画事務所(東京都) キノンビクス株式会社(滋賀県) NPO法人 尋源舎(京都府) 梶山合資会社(東京都)
公益財団法人 武田科学振興財団(大阪府)

・件数 48件
・寄付金総額 3,575,000円

2016年度分(敬称略)(2016年4月1日～2016年7月31日)

橋向 秀岳(石川県) 匿名(個人2名)

・件数 3件
・寄付金総額 160,000円

※キャンパス総合整備・新教室棟建築資金としてご寄付をいただいた方のお名前については、別途寄付者名簿を作成する予定です。

【お申し込み/お問い合わせ先】教育振興資金事務局

京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内 TEL: 075-411-8124

2016年度後期 大谷大学「生涯学習講座」のご案内

大谷大学では、本学の知的財産を広く一般社会に公開するため、「生涯学習講座」を開講しています。

2016年度後期は、本学の研究領域を深化させながら学んでいく「開放セミナー」、本学の研究領域を分りやすく学ぶ「紫明講座」を行います。ぜひ、母校大谷大学で「生涯学習講座」を受講ください。お待ちしております。

開放セミナー

講座名	講師	開講日・時間	定員	会場	受講料	申込締切
やっぱり おもしろおまつせ、西鶴は！ 一元祿・京坂の大晦日に遊ぶ	沙加戸 弘 大谷大学 名誉教授	11月10日(木)・11月17日(木) 11月24日(木)・12月 1日(木) 12月15日(木)・12月22日(木) 時間 18時00分～19時30分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	8,000円 (税込)	10月20日(木)

紫明講座

講座名	講師	開講日・時間	定員	会場	受講料	申込締切
「平家都落」の道 —『平家物語』を味わう—	池田 敬子 大谷大学 教授	11月18日(金)・12月 2日(金) 12月16日(金) 時間 16時00分～17時30分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	10月28日(金)
シェイクスピア没後400年 —その魅力を探る—	Preston L.Houser 大谷大学 教授 三浦 誉史加 大谷大学 准教授	11月 9日(水)・12月 7日(水) 12月14日(水) 時間 14時40分～16時10分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	10月19日(水)
インド文化と健康管理	Dash Shobha Rani 大谷大学 准教授	1月13日(金)・1月20日(金) 1月27日(金) 時間 13時00分～14時30分	100名 (先着順)	大谷大学 真宗総合学術センター「響流館」 3階 メディアホール	4,000円 (税込)	12月16日(金)

【パンフレット請求・申込方法】

* 「生涯学習講座」案内パンフレットの送付を希望される場合は、①～④をご記入のうえ、下記の申込・お問い合わせ先へハガキ・FAX・E-mailのいずれかでご連絡願います。

①氏名・フリガナ ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④「生涯学習講座」パンフレット送付希望

* 受講ご希望の方は、(ア)～(ク)を明記のうえ、ハガキ・FAX・E-mailのいずれかでお申込ください。

(ア)氏名・フリガナ (イ)郵便番号・ご住所 (ウ)電話番号 (エ)「生涯学習講座」申込 (オ)講座名 (カ)年齢 (キ)性別 (ク)職業

* ①～③ならびに(ア)～(ウ)の個人情報は、手続書類や今後の講座の案内送付のために使用いたします。また、(カ)～(ク)は、今後の講座企画の参考データとして利用いたしますので、差支えない範囲でご記入ください。

* 申込が多数の場合、申込締切日以前であっても、受付を終了する場合があります。あらかじめご了承ください。

【申込・お問い合わせ先】

大谷大学 教育研究支援課 MU係

〒603-8143 京都市北区小山上総町

電話 (075) 411-8161

FAX (075) 411-8162

E-mail o_semi@sec.otani.ac.jp

《2016（平成28）年度 大谷大学博物館開館情報》

●特別展 戦国乱世と山科本願寺

会 期 10月13日（木）～11月28日（月）

休 館 日 日曜日・月曜日

※11月21日（月）、11月27日（日）、11月28日（月）は開館

開館時間 10：00～17：00（入館は16：30まで）

●冬季企画展 仏教典籍の宝庫 -三舟文庫 舟橋水哉コレクション-（仮）

会 期 2017年1月11日（水）～2月10日（金）

休 館 日 日曜日・月曜日、1月14日（土）

開館時間 10：00～17：00（入館は16：30まで）

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 電話：075-411-8483

http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

ミュージアムグッズ販売中

博物館が所蔵している貴重な資料をデザインしたグッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。地方発送等も承ります（送料別）。

お問い合わせ・お申し込みは博物館（電話：075-411-8483）まで。

◆「缶バッジ」



四角型は、貝葉資料を包装
していた更紗よりデザイン
丸大 100円
丸小 100円
四角 150円

◆「ノート型付箋セット」



表紙に「源氏物語屏風」
を使用。手帳などにはさ
めます。
1冊 500円

◆「ミニタオルハンカチ」



打敷をデザインに使用
1枚 400円
（2枚以上お買い上げで、
2枚目から350円）

◆「プレゼント用ケース」

1個 50円

◆「ミニ便箋」



貝葉資料を包装していた
更紗よりデザイン
赤・青各色 1冊 350円

ゼミ・クラス等同期会OB・OG会



大谷大学バドミントン部 OB・OG会 (2015.3.7)
大谷大学バドミントン部OB・OG会60周年を行いました。OB・OGさんと現役との交流を深めました。毎年行っておりますので是非ご参加ください。



1996年卒業 名畑崇ゼミ同期会 in 牧歌の里 (2015.8.10)
学生時代とは様変わりした家庭を話題に楽しみました。子供たちも動物や自然にふれて目一杯遊びました。



浄影会 (古田ゼミ同窓会) (2015.8.22)
古田先生をお迎えしての同窓会。久しぶりに先生の鋭い弁舌を拝聴して、皆ひととき学生時代に戻ることができました。



柔道部OB・OG会 (道交会) (2015.8.23)
残暑厳しい中、一年ぶりに柔道場に参集しました。又、同日、尋源講堂にて、物故者の追悼会をご親族をお招きして行いました。



下鴨寮43年入寮生の会 (2015.8.24～26)
今年で5回目を数え、年中行事となりました。長浜別院 (写真)、真宗本廟、大谷大学、下鴨学寮跡を訪ねました。



1983年卒業 幼児教育科 同期会 (2015.8.30)
二十数年ぶりの同窓会、懐かしい顔の再会に短大時代へタイムスリップして、楽しい時をすごしました。

自灯学寮 50周年記念同窓会のお知らせ

自灯学寮 50周年を記念して、同窓会を開催いたたく存じます。卒業生の皆様におかれましては、あらかじめご予約くださいますようお願いいたします。

日程：2017年2月25日(土)

内容：10：00～13：00 寮見学 (南上総町・松ヶ崎)

14：30～16：00 追弔会ならびに記念講演
記念撮影 (大谷大学)

17：00～19：00 懇親会 (烏丸京都ホテル)

ご案内状は11月中にお送りする予定です。

問い合わせ先 大谷大学校友センター



旧自灯学寮

ゼミ・クラス等同期会、OB・OG会開催一覧

開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名
2015. 3. 7(土)	大谷大学バドミントン部 OB・OG会	2015.10.17(土)	1969(昭和44)年3月卒業 大谷大学短期大学部幼児教育科 同窓会	2016. 5. 6(金)	大谷大学 山岳部OB会 空木忌(50回忌)法要
2015. 8.10(月)	1996年卒業 名畑崇ゼミ同期会 in 牧歌の里	2015.10.17(土)	谷雪会(大谷大学スキー競技部 OB・OG会)	2016. 5.14(土)	1997年入学 史学科 織田顕祐先生1-16会
2015. 8.22(土)	浄影会(古田ゼミ同窓会)	2015.10.24(土)	大谷大学空手道部創部60周年記念追弔会・総会・懇親会	2016. 5.15(日)	大谷大学硬式野球部OB会
2015. 8.23(日)	柔道部OB・OG会(道交会)	2015.11.14(土)	宮崎健司先生勤続25周年記念 大同窓会	2016. 5.17(火)	大谷大学33同期会
2015. 8.24(月)	下鴨寮43年入寮生の会 ～26(水)	2015.11.15(日)	大和正克ゼミ 大集合 同窓会	2016. 5.28(土)	アメリカ民謡研究部(会) 創部50周年OB・OG会
2015. 8.30(日)	1983年卒業 幼児教育科 同期会	2015.11.22(日)	1985年3月卒業 藤島建樹ゼミ 同期会	2016. 5.30(月)	1968(昭和43)年卒業 藤原幸章ゼミ同期会
2015. 9. 1(火)	第13回 1955年(昭和30年)入寮 育英学寮 同期会	2015.11.28(土)	1991年入寮 貫練学寮 同窓会	2016. 6. 2(木)	1972～1975年入寮 大谷大学下鴨学寮懇親会
2015. 9. 5(土)	昭和45(1970)年入寮 洗心学寮 同期会 ～6(日)	2015.12. 5(土)	2010年卒業 谷口奈青理ゼミ 同期会	2016. 6. 4(土)	1996(平成8)年卒業 短期大学部仏教科同期会
2015. 9. 7(月)	1966(昭和41)年入寮 育英学寮 同期生 懇親会	2016. 1.30(土)	西田潤一先生を偲ぶ会	2016. 6. 7(火)	1967(昭和42)年入寮 洗心学寮同期会
2015. 9. 9(水)	2008年卒業 短期大学部仏教科 同期会 ～10(木)	2016. 2.11(木)	大谷大学 卒業後 約30年会	2016. 6. 7(火)	1968年・1969年入寮 育英学寮入寮生同期会
2015. 9.19(土)	1985年入学 ドイツ語 語学クラス(禿 恵仁先生)同期会	2016. 2.15(月)	1972(昭和47)年入寮洗心学寮同期会	2016. 6.11(土)	1980年(第14期)入寮 自灯学寮同期会 ～12(日)
2015. 9.22(火)	2007年入寮 自灯学寮 同期会 ～23(水)	2016. 2.16(火)	大谷大学男声合唱団定期演奏会・大谷大学男声合唱団OB会(コールドレンクラブ)総会・懇親会	2016. 6.16(木)	北海道三帰会(北海道在住 安富信哉ゼミ卒業生同期会)
2015. 9.26(土)	直心行射会、OB・OG総会、懇親会	2016. 2.26(金)	1995年入寮 知真学寮 同期会	2016. 6.18(土)	第40回 浄眼洞一夜研修会(山田亮賢先生門下生の会)
2015. 9.29(火)	1970(昭和45)年入寮 育英学寮 同期会	2016. 3. 5(土)	大谷大学バドミントン部 OB・OG会	2016. 6.18(土)	2011年卒業 真宗学科加来雄之ゼミ同期会
2015. 9.30(水)	谷大茶道部清塵会OB(15期～22期)会及び幡谷明先生米寿祝賀会	2016. 3. 6(日)	1975(昭和50)年入寮 自灯学寮 還暦同窓会	2016. 6.25(土)	小川一乗先生祝傘寿OB・OG会 ～26(日)
2015.10. 3(土)	大谷大学卓球部後援会 卓球大会・総会・懇親会	2016. 3. 9(水)	一色順心先生 山野俊郎先生 最終講義ならびに謝恩会	2016. 7. 2(土)	大谷大学バスケットボール部OB・OG会
2015.10. 4(日)	混声合唱団 OB・OG総会	2016. 3.26(土)	1971(昭和46)年度・1972(昭和47)年度卒業生合同 高橋憲昭先生の米寿をお祝いする会	2016. 7.16(土)	1964(昭和39)年 哲学科社会学卒業生同期会 北海道紀行
2015.10.10(土)	大谷大学国文学会 懇親会	2016. 4. 2(土)	1967(昭和42)年谷大卒業50周年記念同期会	2016. 7.22(金)	2014年卒業 安井喜行先生ゼミ同期会
2015.10.13(火)	1972(昭和47)年入寮 自灯学寮 同期会 ～14(水)	2016. 4.16(土)	1980年入学 I-Fクラス(三桐先生)同期会		
2015.10.15(木)	2013・2014年卒業 志藤修史ゼミ 同期会	2016. 4.23(土)	2001年入寮 自灯学寮35期 木越先生学長就任祝賀同期会		

開催をお世話いただく幹事さんへ

◆「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」等を開催されるときは、事前にご連絡ください！

事務局は、大谷大学「尋源館」2階にあります

大谷大学同窓会本部事務局 (大谷大学総務部「校友センター」内)

<連絡先>TEL:075-411-8124 (直通)

FAX:075-411-8157 (直通)

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

※電話・FAX・メール等、ご都合の良い手段でご連絡ください。

◆まずは、開催1か月前までに「同期会届」「OB・OG会届」をご提出ください。

◇「同期会」としてお届けいただくためには、その団体の全対象者にご案内をされていることが前提となります。

◇クラブの「OB・OG会」は、すべての年度の卒業生を対象としてご案内ください。

◇「開催届」の提出と上記の内容を満たしている団体には、通信費の一部として「開催助成費」を補助しています。

◆同窓会本部事務局では、こんなお手伝いができます。

1. 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。

◇「同窓会本部への申請書 提出」より「名簿・宛名ラベルのお届け」までは、1週間～10日程度かかります。
(事務の都合上、それ以上かかる場合もございます。)

2. 大学の施設を、同期会の会場として利用できます。

◇授業・大学行事等の関係上、利用できない場合があります。

利用を希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部事務局へご相談ください。

3. ホームページ「無盡燈」に開催予定・報告を掲載します。

同窓会報『無盡燈』には、写真とともに開催結果を掲載します。

「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」についての詳細は、
同窓会本部事務局までお気軽にお問合せください。



第13回 1955年(昭和30年)入寮 育英学寮 同期会 (2015.9.1)
母校にて寮友や関係各位の追弔会を行い、60年前に出遇った友と、本年の懇親会は、しょうざんリゾートで開き親交を重ねた。



昭和45(1970)年入寮 洗心学寮 同期会 (2015.9.5~6)
3年ぶり、5回目の開催でした。今回は少人数でしたが、近況を語り合いました。次回は、静岡・愛知地区での予定です。



1966(昭和41)年入寮 育英学寮 同期生 懇親会 (2015.9.7~8)
片野道雄寮監を迎え、三河の地で開催。西方寺(写真)・本證寺・妙源寺を参詣。懇親会では、来年の入寮50年の企画が話された。



2008年卒業 短期大学部仏教科同期会 (2015.9.9~10)
「大谷」の名のもと、同じ時・同じ場で学んだ同窓生が集まり、また中川皓三郎先生に教えていただきました。



1985年入学 ドイツ語 語学クラス(禿 憲仁先生)同期会 (2015.9.19)
卒業以来26~7年ぶりに初めて集まり、皆それぞれに老けてはいるものの、話せば一気に学生時分にタイムスリップ。若気の至りのエピソードにお腹がよじれるほど笑い続けました。次回は九州での開催? 予定です。



2007年入寮 自灯学寮 同期会 (2015.9.22~23)
連休を利用して、半年振りの開催となりました。一泊二日で、ゆっくりと共に時間を過ごすことが出来ました。また会いましょう。

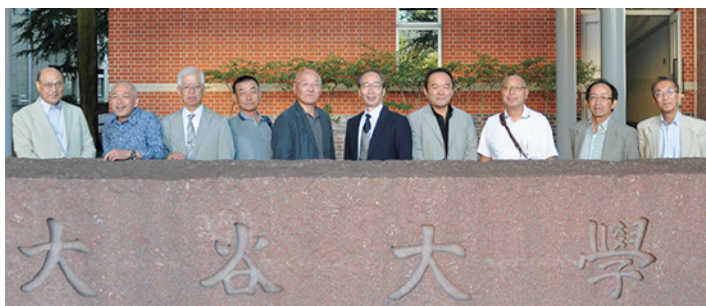
<p>西尾市 岩瀬文庫蔵 赤瀬知子 編著 定価 五、〇〇〇円+税</p>	<p>延縁知道 著 定価 各一、八〇〇円+税</p>	<p>水島見一 著 定価 一、四〇〇円+税</p>	<p>水島見一 著 定価 一、六〇〇円+税</p>	<p>水島見一 著 定価 二、三〇〇円+税</p>
	<p>名所和歌抄出</p>	<p>帰命の生活</p>	<p>苦勞はいいもんや</p>	<p>如來に芝居させられていた人生</p>

文栄堂
〒604-8091 京都市中京区寺町通三条上る
電話 075-2314712
FAX 075-22214712
E-mail bunrei@bunrei.co.jp



直心行射会、OB・OG総会、懇親会 (2015.9.26)
道場完成に至るまで御尽力して下さい皆様には、御恩感謝の念であります。無事会合・式典も執り行えました。

1970 (昭和45) 年入寮 育英学寮 同期会 (2015.9.29)
尋源講堂にて中村・東耀両君に加え、この3年間に還浄した宜春・岩田両君の追弔会を厳修し、場所を移して懇親会。旧交を温めた。



谷大茶道部清塵会OB (15期～22期) 会及び幡谷明先生米寿祝賀会 (2015.9.30～10.1)
OB (15期より22期) 会並びに幡谷明先生米寿祝賀会。参加者8名 (予定では15名でしたが)。



大谷大学卓球部後援会 卓球大会・総会・懇親会 (2015.10.3)
菴澤先輩が長年の保護司活動の実績から、秋の叙勲において瑞宝双光章を授与され、後援会からも御祝させていただきました。来年は、創部85周年、後援会創設40周年を迎えます。



混声合唱団 OB・OG総会 (2015.10.4)
3年後の「創団50周年記念演奏会」にむけて今回、準備委員会を経て実行委員会を立ち上げました。



大谷大学国文学会 懇親会 (2015.10.10)
大谷大学国文学会講演会の後に開かれた懇親会では、本学教員も交えて互いの近況や思い出話に花が咲きました。



1972 (昭和47) 年入寮 自灯学寮同期会 (2015.10.13～14)
昭和47年自灯学寮入寮、現在62歳。久しぶりにOG会をしました。大学を見学し旧自灯学寮前で写真撮影。今度は65歳の秋に会う約束です。



2013・2014年卒業 志藤修史ゼミ同期会
(2015.10.15～16)
湖西キャンパスにて同期会を開催。学年は違っても、先生を囲み楽しい時間を過ごすことができました。



1969（昭和44）年3月卒業 大谷大学短期大学部幼児教育科 同窓会
(2015.10.17)

谷大を卒業して46年、17年ぶりの同窓会に北は秋田から南は福岡より同窓生が集まってくれました。日下部先生をお迎えして、みんな学生時代に戻ったような賑やかさでした。それぞれの近況を一人ずつお聞きし、それぞれの人生を友として知ることが出来、口々に、「谷大時代が人生の青春そのものだったのよ」と申しておりました。



谷雪会（大谷大学スキー競技部OB・OG会）(2015.10.17～18)
今回は谷雪会40周年を迎えることとなり、1泊2日で行いました。遠方から諸先輩方にも出席していただき、盛大な周年記念イベントでした。



大谷大学空手道部創部60周年記念 追弔会・総会・懇親会 (2015.10.24)
尋源講堂にて、亡くなられた先輩方の追弔会をお勤めした後、OB・OG総会を開催。その後、ビッグバレーにて現役学生を交えた懇親会を行いました。



宮崎健司先生勤続25周年記念 大同窓会 (2015.11.14)
1期生から現役のゼミ生まで集まって大変にぎやかな同窓会となりました。次はちょっと先になりますが、還暦のお祝いの同窓会。みなさま、ふるってご参加ください。



大和正克ゼミ 大集合 同窓会 (2015.11.15)
6年ぶりの開催となりました。大和先生を囲んで楽しくおしゃべりし、元気と笑顔をいただきました。又、近いうちに開催したいと思います。



1985年3月卒業 藤島建樹ゼミ 同期会 (2015.11.22)
前回から約20年ぶりの同窓会です。大阪での開催でしたが、鳥根県から藤島先生もお越し下さいました。ゼミ生全員がそろわず残念ですが、出席者はわいわいがやがやと、それは楽しい時間を過ごしました。多感な時期をともに学んだゼミ生は、いくつになってもいいものです。



1991年入寮 貫練学寮 同窓会 (2015.11.28)
尋源講堂にて、参加者6名による感話、藤嶽明信元寮長による法話をいただきました。その後、「ふみや」にて懇親会。かつてのイケメン集団もすっかりおじさんになったことを改めて確認いたしました。



落語研究会 第45回OB・OG寄席 (2015.11.28)
45周年記念の寄席を開催しました。学生時代に立ち回り、現役生とネタに打ち込んだ時間は貴重であり、東の間の幸せでした。



2010年卒業 谷口奈青理ゼミ 同期会 (2015.12.5)
5年目の同窓会。集まった人は少なめだったのですが、とても楽しい時間を過ごすことができました。



西田潤一先生を偲ぶ会 (2016.1.30)
2016年1月30日に尋源講堂にて三回忌法要を行い、続いてピックパレーカフェにて食事会を催しました。出席者17名で、スライドショーでは古き良き時代を懐かしむ声が多く聞かれました。



大谷大学 卒業後 約30年会 (2016.2.11)
これまでも交流があった人も、本当に30年ぶりだった人も、あらためて大谷大学卒業の意味を確かめあった時間でした。



1972 (昭和47) 年入寮洗心学寮同期会 (2016.2.15)
木村先生にご出席いただき、昭和47年入寮洗心学寮同期会を開催しました。2年ぶりの再会に話がはずみ、楽しいひと時を過ごしました。



大谷大学男声合唱団定期演奏会・大谷大学男声合唱団OB会 (コーリンデンクラブ) 総会・懇親会 (2016.2.16)
今年は東本願寺に新装なった「しんらん交流館・大谷ホール」での現役の定期演奏会 (第82回) を期に開催しました。物故者追弔会も併せて厳修し、先輩方を偲びました。



1995年入寮 知真学寮 同期会 (2016.2.26)
大谷大学〜♪第一寮歌〜♪アイン！ツバイン！ドライ！ みんなで、エ
ゲシゲゲ！ (乾杯)



大谷大学バドミントン部 OB・OG会 (2016.3.5)
昨年60周年を迎えました。今年度も10名程度の方々にご参加頂きました。来年も
行いますので皆様のご参加お待ちしております。



1975 (昭和50) 年入寮 自灯学寮 還暦同窓会 (2016.3.6)
還暦の節目に同窓会を開催しました。卒業以来40年ぶりの再会もあり、
皆で大学や旧自灯寮を訪ねるなど、楽しい時間を過ごしました。



一色順心先生 山野俊郎先生 最終講義ならびに謝恩会 (2016.3.9)
永らく仏教学科、短期大学部仏教科でご活躍された一色順心先生と山野俊郎
先生のご退職を記念して、最終講義と謝恩会を開催いたしました。



1971 (昭和46) 年度・1972 (昭和47) 年度卒業生合同 高橋憲昭先生の
米寿をお祝いする会 (2016.3.26)
高橋先生ご夫妻を囲んでの米寿の祝賀会。40数年前にタイムスリップ。青春
時代の息吹が蘇ってまいりました。またお会いできる日を。



1967 (昭和42) 年谷大卒業50周年記念同期会 (2016.4.2)
4月2日に尋源講堂にて同期生21名が集い、勤行と、小谷信千代師、大城雅
史師による記念講演、そして会場を移して懇親会を開催。



1980年入学 I-Fクラス (三桐先生) 同期会 (2016.4.16)
久しぶりに懐かしいメンバーが集まり、話が尽きることなく、あっという間に時間が経ち
ました。子供の手が離れたメンバーも多く、これからは定期的集まることを約束して解
散となりました。



2001年入寮 自灯学寮35期 木越先生学長就任祝賀同期会 (2016.4.23)
木越先生の学長就任のお祝いをしたくて集まりました。



大谷大学 山岳部OB会 空木忌 (50回忌) 法要 (2016.5.6)
五月の中央アルプス空木岳で新入生・現役リーダー・OBの三名が雪の浜に遊いて、はや五十回忌をむかえ、関係者が集いました。



1997年入学 史学科 織田頭祐先生1-16会 (2016.5.14)
卒業ぶりでしたがみんな当時と変わらず、あっという間の楽しい時間でした。また開催したいと思います。



大谷大学硬式野球部OB会 (2016.5.15)
尋源館 (赤レンガ) 会議室において、OB会総会を開催しました。総会では、役員の変更、現役学生への補助金の贈呈を行いました。また、総会後は「てんや」に会場を移し、懇親会を開催、33名が集いました。幅広い年代のOBにご参加いただき、今後のOB会運営についての意見交換がなされました。



大谷大学33同期会 (2016.5.17 ~ 19)
昨年の静岡での同窓会から一年。今回は長崎・佐賀での33同期会でした。時の過ぎるのも忘れての青春を語りました。次回は能登です。



アメリカ民謡研究部 (会) 創部50周年OB・OG会 (2016.5.28)
5月28日、ライブハウス「拾得」にて1966年設立当時のOB・OGから現役生に至るまで、年齢差50才、75名の参加で盛大に開催いたしました。前顧問の小川一乗先生、現顧問の藤嶽明信先生をお招きし、10数組が3時間に渡りステージで熱演し、また数十年ぶりに再会した同期会のおしゃべりに、大盛り上がりでした。次回は4年後、オリンピックの年に開催予定です。



1968 (昭和43) 年卒業 藤原幸章ゼミ同期会 (2016.5.30 ~ 31)
学部卒業後48年になり、同窓生も古稀を迎え、これまでも十数回の集まりを実施。二年に一度は集まり、恩師の遺徳を偲ぶ。



1972 ~ 1975年入寮 大谷大学下鴨学寮懇親会 (2016.6.2 ~ 3)
還暦の祝賀会です。昨年大阪に続き、金沢で開催しました。二次会からの参加も多く頂きました。来年は新潟です。



1996 (平成8) 年卒業 短期大学部仏教科同期会 (2016.6.4)
2年振りの開催でした。少人数でしたが、大変盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができました。



1967 (昭和42) 年入寮 洗心学寮同期会 (2016.6.7)
4回目の同期会は、小川先生の傘寿のお祝いもあり、少し優雅に芸舞妓と同席で楽しい時間を持ちました。



1968年・1969年入寮 育英学寮入寮生同期会 (2016.6.7)
京都教務所にて追弔法要を勤め、寮時代苦手の伽陀は寮歌よりも声が大きく年月を経た事を感じ、祇園では踊り明かし、再会を約束して散会。



1980年 (第14期) 入寮 自灯学寮同期会 (2016.6.11 ~ 12)
同じ釜の飯を奪い合った頃に戻ったような、賑やかで楽しいひとときでした。



北海道三帰会 (北海道在住 安富信哉ゼミ卒業生同期会) (2016.6.16)
北海道教区定例講師研修会と連携し、先生ご夫妻を囲み札幌エクセルホテル東急にて開催。先生の「随所作主」のお言葉が響きます。



第40回 浄眼洞一夜研修会（山田亮賢先生門下生の会）（2016.6.18～19）
今年は京都に集まりました。テーマは「法蔵菩薩は阿頼耶識なり」。言わずもがなの大きな課題です。「学ぶれど 学ぶれど その先とおし（織田）」



2011年卒業 真宗学科加来雄之ゼミ同期会（2016.6.18）
2年連続開催することができ、大変嬉しく思います。今回は参加人数は少なかったですが、旧友たちとの時間を楽しむことができました。



小川一乗先生祝傘寿OB・OG会（2016.6.25～26）
小川先生の傘寿のお祝いをご縁に、ゼミOB・OG旅行に行きました。先生を囲み楽しい時間を共有しました。

大谷大学バスケットボール部OB・OG会（2016.7.2）
7/2（土）に第41回大谷大学バスケットボール部OB・OG会を開催しました！大会では男子部の現役とOBが熱戦を繰り広げ、101対99でOBが勝利しました！懇親会では、現役とOBが交流し、健闘を讃え合い、その後会場を移動し、木越学長の就任祝いをを行いました。



1964（昭和39）年 哲学科社会学卒業生同期会 北海道紀行（2016.7.16～18）
後期高齢者になった者、なる者9名と坊守6名が2泊3日の道南の旅を楽しみ、函館の夜景と登別温泉の香をかぎつつ懇親を深める。



2014年卒業 安井喜行先生ゼミ同期会（2016.7.22）
卒業して1年4カ月ぶりに集まることができました。次回こそ全員参加を目指します！

本部報告

2016年度 同窓会総会開催【報告】

2016年5月16日（月）午後1時30分より、博綜館第1会議室において、本年度の同窓会総会が開催されました。

議長には静岡県支部長の熊谷法昭氏が選出され、各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

1. 2015年度「事業報告」および「収支決算報告」（下記「収支決算書」参照）

事務局より、「事業報告」と「収

支決算報告」について報告され承認されました。また、2015年度の同窓会総会の議決を経て、同窓会基金の一部取り崩しを行い同窓会運用資金の創設を行ったことが報告されました。事務局からの報告を受けて、長谷岡英信監事から監査報告がありました。

2. 2016年度「事業計画」および「収支予算（案）」（下記「収支予算書」参照）

事務局より、「事業計画」と「収支予算（案）」について提案され承認されました。

3. キャンパス総合整備計画・新教室棟建築に係る募金活動について

寺西龍水本部事務局長より、2015年度の同窓会総会の議決を経

て、理事会・常務理事会で検討・審議を行い、各支部の「目標額」を設定することと、募金活動費として、目標額の3%を同窓会本部から各支部へ支給することが決定された旨報告されました。

4. NPO法人「尋源舎」の現状と今後について

同窓会が設置母体となっているNPO法人「尋源舎」の現状が厳しい状況に置かれているとの認識に基づいて藤島建樹会長より提案理由が説明され、織田顕祐理事長より「尋源舎」の現状と問題点について報告されました。なお、出席者からは「解散する方向ではなく、存続する方向で活動を行うべき」とのご意見もいただきました。

5. その他

事務局より、同窓会総会の休憩中に開催された理事会において、山田恵文（常務理事）が無盡燈編集委員を退任し、後任の無盡燈編集委員に三宅伸一郎（大谷大学准教授）の就任が決定された旨報告されました。

同窓会理事長・事務局と大学執行部から、以下の報告がなされました。

1. キャンパス総合整備計画の進捗状況について

寺西龍水学監・事務局長より、現在進行している新教室棟建築工事の中央・南エリアは7月末に工事を完了、後期授業より供用開始の予定であると報告されました。また、1号館（旧館）の吹き付けアスベストの除去対策については、

2015年度
大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】		(単位 円)
科 目	決算額	
1. 前年度繰越金	14,391,561	
2. 会 費	24,630,000	
会費(1)	1,530,000	
会費(2)	23,100,000	
3. 入 会 金	3,850,000	
4. 寄 付 金	634,000	
5. 同窓会基金取崩収入	19,000,000	
5. 雑 収 入	386,819	
合 計	62,892,380	

【支出の部】

【支出の部】		(単位 円)
科 目	決算額	
1. 事 業 費	11,189,575	
本部事業費	3,519,494	
支部事業助成費	3,700,000	
同期会・OB会等開催助成費	510,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	2,960,081	
2. 刊 行 費	3,314,642	
無盡燈刊行費	2,580,188	
印刷製本費	734,454	
3. 事 務 費	3,271,206	
本部事務局費	7,591	
活動費	380,000	
通信費	2,883,615	
4. 旅 費	6,968,698	
5. 会 議 費	1,188,875	
6. 委 託 費	1,746,870	
7. 雑 費	218,242	
8. 同窓会基金への繰入支出	194,842	
9. 同窓会活性化準備金	214,386	
10. 同窓会運用資金	25,000,000	
11. 予 備 費	0	
合 計	53,307,336	

2016年度
大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】		(単位 円)
科 目	予算額	
1. 前年度繰越金	9,585,044	
2. 会 費	23,640,000	
会費(1)	1,140,000	
会費(2)	22,500,000	
3. 入 会 金	3,750,000	
4. 寄 付 金	700,000	
5. 同窓会基金取崩収入	0	
6. 雑 収 入	324,956	
7. 同窓会運用資金	25,000,000	
合 計	63,000,000	

【支出の部】

【支出の部】		(単位 円)
科 目	予算額	
1. 事 業 費	18,670,000	
本部事業費	4,290,000	
支部事業助成費	10,080,000	
同期会・OB会等開催助成費	600,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	3,200,000	
2. 刊 行 費	4,005,000	
無盡燈刊行費	2,860,000	
印刷製本費	1,145,000	
3. 事 務 費	3,884,000	
本部事務局費	40,000	
活動費	404,000	
通信費	3,440,000	
4. 旅 費	8,130,000	
5. 会 議 費	1,980,000	
6. 委 託 費	2,100,000	
7. 雑 費	500,000	
8. 同窓会基金繰入支出	140,000	
9. 同窓会活性化準備金	1,500,000	
10. 同窓会運用資金繰入支出	22,000,000	
11. 予 備 費	91,000	
合 計	63,000,000	

使用していることが判明して以来飛散状況の測定を継続しているが、これまでのところ飛散は確認されていないことが報告されました。

2. 真宗総合研究所東京分室の開設について

宮崎健司学監・副学長より、東京の親鸞仏教センター4階に2016年4月27日（水）に真宗総合研究所東京分室が開設されたと報告されました。同初代室長には池上哲司本学名誉教授が就任し、3名の研究員と共に研究が開始されたことも報告されました。

3. 今後の同窓会活動について

織田顕祐理事長より、将来構想委員会準備会について引き続き検討中であるが、2015年度は委員の日程調整が難航し、あまり会議を開催できなかったため2016年度は開催日を定例化して、少しでも議論を深めていきたいと報告されました。また、今までの地域支部だけではなく、ゼミ・クラス、クラブ、学寮などを同窓会の支部組織に加えて、若い同窓会員が同窓会活動に参加しやすい環境を構築したいとも報告されました。

4. その他

- ① 糸山公信熊本支部長より、平成28年熊本地震の被災状況についての報告とご心配いただいたことについてのお礼が述べられました。
- ② 事務局より、夏季八十講の講師謝礼の源泉徴収に関する件と支部助成費について報告されました。



同窓会総会(博綜館第1会議室)

「第20回 ホームカミングデー」開催(報告)

「第20回ホームカミングデー」を、学園祭期間中の11月14日（土）に開催いたしました。当日は、名誉教授や、ご退職になられた先生方、専任教員など35名の先生方にご出席いただき、約200名の同窓生ならびに会友の皆様にご参加いただきました。また、同窓会の役員や支部長もご出席くださいました。

「集おう！！母校で」をテーマに掲げ、同窓生13名と在學生4名にも運営にご協力をいただき、実施いたしました。

大谷大学では、現在、2018（平成30）年の完成を目指し、新教室棟の建築を含めた「本部キャンパス総合整備計画」に着手しています。「至誠館」「聞思館」「3号館」の跡地では新教室棟の新築工事が進められており、その後「1号館（旧館部分）」の建て替えも計画されています。

そのため、今年度はイベントとしてスタンプラリー「変わりゆく学舎（まなびや）」を企画しました。参加された皆様には「1号館（旧館部分）」などのポイントを回って、学内の様子をご覧いただきました。



新教室棟建築工事の模型展示



恩師との懇談



旧友との懇談



スタンプラリー

また、幼稚園・小学校の教員を目指す教育・心理学科の学生や教職員にも協力をいただき、「おおたにキッズキャンパス」を開催し、ホームカミングデーに来場されたお子様にゲームや工作などを行ってもらいました。



おおたにキッズキャンパス

会場内では、同窓会役員ならびに同窓会支部（全国に80ある地域支部）や、支部長よりお贈りいただきましたご当地のお品をご披露申しあげ、スタンプラリーに参加された先生方や同窓生の皆様に贈呈させていただきました。名産の数々は、参加された皆様に大変好評を博しました。ご協力くださいました同窓会地域支部の皆様、心より感謝申しあげます。

次回も同窓生の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。



同窓会役員・支部より提供された特産品



同窓会役員・支部より提供された特産品



景品交換



景品交換

また、ホームカミングデーの終

了後、今年度の特別企画「われら40代！ここにあり！」を開催いたしました。同窓生11名の方にご出席いただき、同世代同士、意気投合し、盛りあがっていました。



われら40代！ここにあり！



われら40代！ここにあり！

当日の様子は、写真、同窓会Facebookもご覧ください。

2015年度「卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」開催（報告）

3月18日（金）に2015年度「卒業証書ならびに学位記授与式」が挙行され、式典終了後の16時30分よりグランドプリンスホテル京都において、「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。

この祝賀会は、卒業・修了をお祝いする「祝賀の会」であると同時に、「大谷大学同窓会」へのご入会を歓迎する「歓迎会」としての意味を込めて、「大谷大学」と「大谷大学同窓会」が共催する祝宴です。

草野顕之学長、藤島建樹同窓会長の祝辞の後、卒業・修了生を代表して文学部人文情報学科ご卒業

の西村理恵さんが挨拶と乾杯の発声を行い祝宴が始まりました。その後、今年度の学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行われました。また、アトラクションでは短期大学部幼児教育保育科卒業生全員による合唱と、卒業生・教職員有志による寮歌を披露していただき、祝賀会は大変盛りあがりを見せました。



草野学長祝辞



卒業・修了生代表
西村さん 乾杯発声

学生生活も最後となるこの日、一時を惜しむかのように和やかな雰囲気の中、恩師そして友だちとの語らいが続けられていました。



歓談の様子

2015年度 同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行う

3月18日（金）に開催されました「大谷大学卒業・修了ならびに

同窓会新入会員歓迎祝賀会」において、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行われました。

この「菩提樹賞」は、同窓会が学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で、顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生または課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願って贈るものです。

今回は、スポーツ分野で文学部教育・心理学科ご卒業の笠松順さん、文学部歴史学科ご卒業の小泉風磨さん、文学部社会学科ご卒業の中麻さんが表彰されました。



藤島同窓会長より表彰

表彰の後、笠松順さん、小泉風磨さん、中麻さんに、スピーチしていただきました。

今後、笠松順さん、小泉風磨さん、中麻さんが一層活躍されることを期待しています。



受賞者と同窓会長(左より)笠松さん、藤島会長、小泉さん、中さん

2016年度「大谷大学・同窓会全国縦断 夏季八十講」ならびに「支部総会」の開催について

今年度も7月から9月にかけて、

「大谷大学・同窓会 全国縦断 夏季八十講」ならびに「支部総会」を全国75支部69会場で開催いたしました。

夏季八十講は、全国に80支部ある同窓会支部と大谷大学とが協働して講演会を開催するもので、同窓生・在学生はもとより広く一般市民にも公開され、地域社会の文化興隆に大きな役割を果たしています。



鹿児島支部



神奈川支部



奈良支部

**支部長・事務局交代等のご紹介
ありがとうございました
よろしくおねがいたします**

〈旭川支部長〉 片岡 龍一
(前支部長 岩城知行)
〈郡上支部長〉 和田 一丸
(前支部長 佐々木元)
〈大聖寺支部長〉 龍山 恩
(前支部長 藤懿彰了)

〈福井支部長〉 今川 雅照
(前支部長 日下部求)
〈湖西支部長〉 河野 貫由
(前支部長 川那邊章)
〈大阪市支部長〉 墨林 浩
(前支部長 藤原 憲)
〈久留米支部長〉 調 紀
(前支部長 清原瑛通)
〈郡上支部事務局〉
楠 智広
(前事務局 玉腰秀樹)
〈福井支部事務局〉
藤原 一葦
(前事務局 清水 顕)

新たに発足した支部事務局

〈岐阜支部事務局〉 田中 仁見

支部事務局を廃止した支部

〈長崎支部事務局〉
(前事務局 藤村強輔)

敬 弔

大谷大学同窓会の発展にご尽力賜り、多大な功績を残されました現・元役員および支部長様のご逝去について、謹んでご報告申し上げます。

同窓会副会長 等岳兼昭氏

2016年5月25日ご逝去

【履歴】

1979年～2007年 同窓会大分支部長

2000年～2004年 同窓会理事

2005年～2010年 同窓会常務理事

2011年～ 同窓会副会長

元同窓会理事

元同窓会三為会支部長 本田昭英氏

2016年8月8日ご逝去

【履歴】

1993年～2002年 同窓会三為会支部長

1997年～2007年 同窓会理事

富山支部長 井口榮樹氏

2016年8月8日ご逝去

【履歴】

2009年～ 同窓会富山支部長

ここに深甚の謝意を表し、謹んでお悔やみ申し上げます。

同窓会費の納入のお願い

本学同窓会は、同窓の皆さまと母校との連繋を図ることを目的に、同窓会総会等の諸会議の開催、支部総会・夏季八十講への補助、ホームカミングデーの開催、新入会員歓迎祝賀会の開催、会報誌『無盡燈』の発行・送付、ゼミ・クラスの同期会及びクラブのOB・OG会等への補助等の事業を展開しています。

このような事業の財務基盤は、同窓の皆さまから納入していただく同窓会費（終身会費と年会

費）と寄付金によって賄っています。

現在同窓会員は約37,000名ですが、そのうち約2/3が終身会員（1992年3月以降の卒業・修了の方は、入会時に終身会費を納入していただいております）、約1/3が通常会員（1991年9月以前の卒業・修了生で終身会員以外の方）となっています。

同窓会活動は、側面から大学を支えて、母校の更なる発展に寄与するために、ますますの活

性が強く求められています。このためにも、同窓会活動へどうか温かいご理解とご支援を賜わり、年会費または終身会費、寄付金の納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

いずれの場合も、同封の払込取扱票（郵便局扱）をご利用いただきますと手数料は不要です。

なお、通常会員から終身会員への変更も可能です。詳しくは、同窓会本部（075-411-8124）までお問い合わせください。

NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」について

NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」は、同窓会が設立母体となって、2006年12月に設立した、仏教の公開を目的とした特定非営利活動法人です。尋源舎は、皆さまからの賛助金（一口3,000円）で活動を行っています。

お問い合わせは、大谷大学同窓会本部(TEL: 075-411-8124)まで。



同窓通信

「遇ひがたくして、今、遇ふことを得たり」

糸山 公照

(2001年 大学院修士課程真宗学専攻 修了)

今回の九州熊本地震では、大谷大学で知り合った同朋が助けくださったお陰で、何とか暮らしています。私1人では絶対どうにもならなかったと思います。本当にありがとうございます。

「希望の種をまくことがおれらの仕事だよ！」

物資が手に入らなかったときに頼ったのが、内古閑信暁先輩でした。

「物資あるよ！どれくらいいる？ 持って行くけん。独りでがんばんな！おれらもおっどが！」と嬉しくて涙が出ました。二本松の佐々木道範先輩は、14日の地震から車を走らせ、16日から炊き出しされていました。

「炊き出しを子どもたちが、手伝ってくれんだよ。もし、南海トラフ地震とか起きたらおまえら助けにいくか！絶対行きます」って目を輝かせながらいてくれんだよ。あいつらが希望だよ。そういう希望の種をまくことがおれらの仕事だよ！」かこよすぎます。

地震直後一番に助けに来てくれたのが、福岡の古賀成磨・信磨兄さん。地獄に仏とはこのことだと思いました。私の故郷、宇城市豊野町のみなさんに継続的支援を行ってもらっています。避難所のみなさんは、炊き出し後に、話を聴いてもらえるのを何よりも楽しみにされています。「ありがとうございます！また、会えてうれしかった！」と何度も、来てくださることが嬉しいんです。「最後の1人になるまで、俺らは来る！」自慢の兄たちです。

地震1ヶ月後に、車中泊もしていた愛車が故障。エンジンが壊れ、もう買い換えるしかないと言いつつ諦めかけていたときに、「想い出が詰まった車なんだろ？俺が直すよ！」と知真学寮で一緒だった川谷光昭社長（大分）と鬼頭武志ヘッポコ社員（京都）が積載車で代車持って、助けに来てくれました。学生のときも、胃潰瘍で入院したときも救ってくれたのが武ちゃんでした。ありがとうね。

北海道から大山智先輩が訪ねてきて、「谷大の繋がりがってすご

いな～谷大みたいなのが、いっぱいできたらいいのに・・・」と言われたとき、一楽真先生が「何いってんだ！それがお寺だろ！」と昔同仕事を言われたのを思い出しました。

書ききれませんでした。その他にも多くの大谷大学同窓生のみなさんに父（公信）共々助けられています。これも阿弥陀さまのお陰です。

「被災地熊本に笑顔と元気を届けたい！」と名古屋の坊さんバンド「G・ぶんどりーか」が光照寺夏祭りで復興支援ライブを開いてくれました！賢祐ありがとう！「な～むあみだぶりなむあみだぶつ～り」と子ども達も東本願寺タオルを振り回して、盛り上がっていました！



いつどこで、災害が起こるかわかりません。有事のために、希望の種を子ども達にまき、出遇いと絆のエンカウンタープレイスとして大谷大学のようなお寺を再興したいです。

南相馬の木ノ下秀俊兄貴から、「東北の魂は、おまえに渡したから」と託されたFSC（復興支援センター）東本願寺のベスト！これ着ると独りじゃないって勇気をもらうんです。最後の1人が人の目を気にしないで、横になれる家で安心して暮らせるようになるまで通います。

東北も九州も、まだ、復興は終わっていません。中長期的支援を継続できるのは、この大谷大学の繋がりがありません。「遇ひがたくして、今、遇ふことを得たり」助けてください！まだ、あなたの助けを必要としている同窓生がいます！！

大谷大学に入ってほんと、よかった～大谷大学ありがとう！阿弥陀さま、親鸞聖人と出遇えてよかった！南無阿弥陀仏！合掌！！



現役教員からのお便り

反「反知性主義」

大谷大学准教授（国語学）大秦 一浩

知的な生き方に価値を見出さず、むしろ怨念を抱くように攻撃する志向を「反知性主義」と称するならば、近年は反知性主義が花盛り。大学も学修成果がいかにか世のためになるか、説明を要する時代となりました。人の役に立つことの大切さは言を俟たぬところですが、役に立つという一事にかまけていると、他者に役立つべき自己が疎かにならないでしょうか。

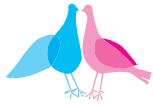
昨年度、本学に文藝塾という組織ができました。「文」を重んじる大学として、文という現象の知覚が要請されたわけです。月に一度ほど塾生が集いました。講師は文筆を天職とする作家陣。創作とは何か、何が創作させるのか、創作の悲喜こもごも、創作の生活などなど、先生方は塾生に思い思いの創作を語りかけてくださいました。笑いの中にも真摯な姿勢を汲み取って、塾生たちは各々の文章を省みた

ことです。そして、本年度はこの講義に加え、実践編としての演習も始まり、文藝塾はさらに進化の途上にあります。

それにしても文藝塾、何という役立たずな、もとい教養主義的な組織ではありませんか。しかも今の世にこんなことをして、学内の誰一人非難しない。もっと宣伝してほしいと言われたくらいです。本学ときたら何て素敵に教養主義でしょう。

同窓生の皆様、本学はこれからも教養主義を大切にすることでしょう。そして、これからも本当の意味で世の役に立つ人々を輩出することでしょう。どうか反知性主義には毅然とした知性にてお臨み下さいますよう。





ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。

()内は最終卒業・修了年(敬称略) ※同窓会本部 7月31日現在 掌握分
結婚式日順

※大谷大学尋源講堂で仏前結婚式をお受けしています。

お問い合わせは、総務課(電話:075-411-8163)まで。

伊藤 大信 (2008修)	♥	白谷美和子	田中 真 (2012文)	♥	丸尾 明里
樟 千晴 (2005文)	♥	葛城 妙子	芹口 尚弘 (2015文)	♥	田中 眞美 (2015文)
坪井 泰樹	♥	寺西由貴乃 (2013文)	吉原 真一 (2008文)	♥	白木澤 琴 (2010修)
平岡万佐行	♥	加藤 夏子 (2001文)	山西 浩介 (2011文)	♥	吉宮 舞 (2011文)
小野 耕司	♥	内藤美貴子 (2007文)	田中 達也	♥	中出 千晴 (2014文)

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

()内は最終卒業・修了年(敬称略) 年月日はご逝去された日付

※同窓会本部 7月31日現在 掌握分
ご逝去された日付・五十音順

青嶋 義信 文学部 (1974) 2013.10.24	小川 讓 大学部 (1947) 2015.7.9	出水 明 大学部 (1944) 2015.12.20
菊池 了俊 大学部 (1950) 2014.1.4	間野 大雄 大学部 (1953) 2015.8.9	村上 章信 文学部 (1964) 2015.12.21
片岡 俊宏 文学部 (1982) 2014.1.8	本田 励 修 士 (1986) 2015.8.12	土居原定司 大学部 (1952) 2015.12.23
安藤 良明 文学部 (1966) 2014.6.2	日野 徹 文学部 (1970) 2015.8.17	藤井 順 修 士 (1974) 2015.12.25
藤谷 善孝 文学部 (1971) 2014.10.27	大塚 豊継 文学部 (1974) 2015.8.18	親跡 恵正 大専門 (1944) 2015.12.28
末田 薫 文学部 (1953) 2014.11.20	太田 祖電 大学部 (1944) 2015.8.23	藤井 慧然 大専門 (1941) 2015.12.29
川口 観之 文学部 (1956) 2014.11.27	片岡 英信 大学部 (1951) 2015.8.27	鷹尾 智 文学部 (1970) 2016.1.9
武本 常宣 文学部 (1959) 2015.1.1	池田 秀廣 大学部 (1952) 2015.9.8	田代 義晃 大学部 (1949) 2016.1.14
長縄 広治 大学部 (1947) 2015.1.1	其日 正芳 文学部 (1957) 2015.9.12	小笠原 暁 文学部 (1972) 2016.1.19
菊池 雅憲 文学部 (1969) 2015.1.27	畑野 公夫 文学部 (1961) 2015.9.20	河村 誠一 大学部 (1946) 2016.2.1
都築我何人 大学部 (1949) 2015.3.15	松村 隆 大専門 (1950) 2015.9.22	小和 重 文学部 (1960) 2016.2.3
加藤 隆生 大学部 (1953) 2015.3.17	杉森 芳正 文学部 (1960) 2015.9.27	本田 昭文 文学部 (1956) 2016.2.6
寛 智雄 文学部 (1959) 2015.4.1	青木 明朗 短 期 (1956) 2015.10.1	乗杉 秀照 文学部 (1957) 2016.2.15
柳 正孝 短 期 (1968) 2015.4.7	外松 俊成 文学部 (1960) 2015.10.2	盛 徹 文学部 (1972) 2016.2.15
石川 大宝 短 期 (1960) 2015.4.8	加藤 香浄 修 士 (1972) 2015.10.1	森島 憲秀 文学部 (1971) 2016.3.3
中條 弘道 文学部 (1955) 2015.4.24	梨谷 哲栄 文学部 (1960) 2015.10.21	庵原 大介 短 期 (1998) 2016.3.14
前川 昌之 文学部 (1980) 2015.4.24	畑中 真澄 修 士 (1976) 2015.10.28	森田 了栄 大学部 (1952) 2016.3.24
杉田 弑恵 文学部 (1955) 2015.4.26	佐々木了泰 文学部 (1961) 2015.10.29	大河内了義 文学部 (1953) 2016.5.6
加藤 諦良 大学部 (1952) 2015.4.27	此松 法純 大学部 (1949) 2015.10.31	小妻 道生 博 士 (1962) 2016.5.8
大谷 達 文学部 (1959) 2015.5.7	大鹿 義正 大学部 (1950) 2015.11.3	経塚 修 大学部 (1953) 2016.5.23
永尾 章典 大学部 (1951) 2015.5.18	杉浦 義孝 修 士 (1969) 2015.11.13	等岳 兼昭 大専門 (1948) 2016.5.25
西本 正念 修 士 (1976) 2015.5.25	藤波 仁史 短 期 (1970) 2015.11.15	長谷川小四郎 修 士 (1975) 2016.6.3
龍湖 秀峰 文学部 (1959) 2015.5.26	塩川 秀恵 短 期 (1980) 2015.11.23	一色 順心 博 士 (1980) 2016.6.6
中谷 寿麿 文学部 (1961) 2015.5.29	大乘 大城 文学部 (1958) 2015.11.26	浅野 昭 大専門 (1948) 2016.6.18
加来 芳城 短 期 (1957) 2015.6.2	白土 わか 大学部 (1953) 2015.11.26	堀前 恵裕 修 士 (1974) 2016.6.28
安藤 真吾 博 士 (1965) 2015.6.21	富樫 章雄 文学部 (1974) 2015.11.28	谷 専修 文学部 (2011) 2016.7.28
黒田 正樹 文学部 (1960) 2015.6.21	森 三智丸 文学部 (1982) 2015.11.29	
福沢 弘文 大専門 (1946) 2015.6.25	藤 政昭 文学部 (1953) 2015.11.30	
嶽小原道男 大学部 (1949) 2015.6.29	大橋 明 文学部 (1957) 2015.12.1	
伊藤 勇夫 文学部 (1962) 2015.7.4	加藤 真人 修 士 (1988) 2015.12.2	
村上 憲昭 短 期 (1968) 2015.7.15	馬場 齊 文学部 (1965) 2015.12.2	
村上幽香子 短 期 (1976) 2015.7.24	徳野 智学 文学部 (1959) 2015.12.6	
竹内 秀彦 文学部 (1953) 2015.7.26	加藤 御藻 短 期 (1968) 2015.12.12	
相馬 学 短 期 (1957) 2015.7.28	古曾根 洋 文学部 (1966) 2015.12.14	

飯田剛史先生 (社会学)、 ご逝去

去る8月20日、本学特別任用教授の飯田剛史先生(66歳)がご逝去されました。

ここに深甚の謝意を表し、謹んで哀悼の意を表します。

「当たり前のこと」

赤煉瓦（旧称本館・現尋源館）を取り囲んでいた樹木が伐採された。幹の内部の空洞化や根の強度不足で倒木の恐れがあるとのことだから仕方なからう。ただそれによって建物を取り巻く風景は変わった。写真で見る創建当時の様相である。



大谷大学教授
歴史学（東洋史）
桂華 淳祥

そもそも本学の学舎は一帯が田圃で囲まれた地に建てられた。そのため風致への対策は建設当初から行われ、菩提樹やヒマラヤスギのような記念樹とは別に、学舎の将来の環境を見越して楠の苗木五百本近くが植樹された。しかしその後、大正12年、市電を通すため丸鳥通りを拡張した際にその部分にあったものが、また第2次大戦時には防火や燃料の代用のために多くが伐採されてしまった。植樹を手がけられた北村清太郎氏は60余年後にこの地に立たれ「残っていれば洛北のオアシスとなっていただろう」と残念がられている（大谷大学通信10号 昭和54年）。それでも私の学生時代であった昭和40年代後半にはまだまだ森のようなところもあって、春には桜花、

夏には鬱蒼と重なる樹木の葉間から蝉時雨、秋には樹下に曼珠沙華（彼岸花）が咲き乱れる中で過ごしていた。自然の恩恵を享受していたのである。

数年前、還暦を迎えようという時に、病の兆候が見つかって右肺のほとんどを摘出した。こんな状態で初めて外出したときの驚きは形容し難いものであった。ただ普通に歩くそのことが呼吸を困難にする。まるで周りの大気が急に無くなっていくような感覚である。その後、このような生活には慣れてきたが、それでも注意を怠るとすぐに息苦しさが襲ってくる。存在感が希薄なたとえに「空気のようなもの」などと使っていたが、なんと浅はかなことか。その存在があまりに当たり前すぎて、意識すらしていなかったのである。そして今、その当たり前がどれだけ有り難いかということを思い知らされている。

こんなこともあってか、最近は常に自分を包み込んでくれる大気に対する意識と感覚が繊細になったようで、山野などいわゆる自然の中に身を置くと心が落ち着く。京都御苑の一角を散策している時には、ふと学生時代のキャンパスを思い出し、100年前に学舎を築き、のちに学ぶもの達にとっての自然環境の大切さを構想された先達の意図に、今になって初めて思いを致しているのである。

表紙絵 「一灯」

釈尊成道の地はブッダガヤであるということは誰でも知っていますが、実はそのことを知るようになったのはたった百数十年余り前です。

日本人で初めてブッダガヤを訪れたのは北畠道龍師です。師は西本願寺の宗務総長を解任され、訪欧の機会を得ますが、その折の明治16年にブッダガヤの大塔を礼拝されました。アレクサンダー・カンニガムによって発掘された3年後のことです。そして師は、その地は釈尊涅槃の地であると記しておられます。そのことからわかるように、釈尊成道の地であると判明したのはそんなに遠い昔のことではありません。

今ではブッダガヤは国際仏教村のようになり仏教各国の寺院が乱立しています。タイだけでも40ヶ寺ほどあり、各国の巡礼者であふれていますが日本の巡礼団は年々減少しています。私は43年前から1年を除き毎年インドに調査、研究に出かけていますが、仏跡だけでなくインドを旅する日本の若者は80年代を境に減少し、逆に韓国や台湾の若者の方が増えています。

ブッダガヤの大菩提寺の境内では、巡礼者（主にチベット難民）は全面灯明やローソクで荘厳し折り続けてきました。それは人々の仏に対する信仰心でもありました。お金のある人は数多く献灯

興福寺中金堂法相柱絵と畠中光享展
会期・会場予定（全て2017年）

1月11日（水）～1月23日（月）東京・高島屋日本橋店（ランドホール）
2月10日（金）～3月20日（月・祝）富山・富山県水墨美術館
4月8日（土）～5月14日（日）茨城・茨城県天心記念五浦美術館

四曲一双屏風 167.0×362cm×2 2015年作（部分）

し、お金のない人は一灯でも献灯し、毎夜、万灯で境内が荘重な雰囲気であふれていました。炎が一つ一つ違い、「みんな違ってみんな良い」を感じます。その油煙のために大塔西側の釈尊の成道の象徴としての菩提樹が弱り、10年程前から境内南側に棟を建て、そこが献灯所となりました。仏教、特に浄土教では灯、光を大切にします。「智慧の光明量りなし」。智慧があれば愛も慈悲も解釈できます。

釈尊入滅後、仏教は分派していききましたが、何事も元の教えが基本です。私は来年一年間「興福寺と法相柱祖師絵展」の企画があり、制作の最終段階に入っています。興福寺は元々「唯識」を学ぶ学場です。ヴァスバンドゥ（世親、天親とも言う）は『唯識三十頌』を書かれています。安田理深先生も、本多弘之先生も唯識と深く関わっておられます。仏教は年齢や性別や派閥ではありません。大谷大学は一般の大学ではなく、生き方を学ぶ大学であり、仏教興隆の役目であることのしっかりとした認識が必要であると思っています。

畠中光享（1970年文学部卒業）

日本画家 大谷大学非常勤講師

5月19日（金）～5月29日（月）神奈川・高島屋横浜店（ランドホール）
7.8月予定 京都国立近代美術館4階企画展示場
9月5日（火）～10月22日（日）新潟・新潟市新津美術館
11月18日（土）～12月24日（日）山形・酒田市美術館
12月13日（水）～12月25日（月）大阪・高島屋大阪店（ランドホール）

2016年9月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本「教行信証」から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなのものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにもみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。



ホームページ「無盡燈」
毎月1回更新しています。

<http://www.mujinto-otani.org/>



大谷大学同窓会Facebook
活躍中の同窓生の様子や、大谷大学の最新情報をお知らせしています。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/mujinto.otani/>

